

官報

號外 昭和十二年三月三十一日

○第七十回衆議院議事速記録第三十五號

昭和十二年三月三十日(火曜日)

午後二時二十分開議

議事日程 第三十六號

昭和十二年三月三十日

午後一時開議

質問

一 帝國陸海軍ニ於ケル齒科衛生ニ關スル質問(杉山元治郎君提出)

二 林内閣ノ政綱政策並文致上ノ諸問題ニ關スル質問(佐藤與一君提出)

三 帝都防火建築ニ關スル質問(深澤豐太郎君提出)

四 對滿對支政策ニ關スル質問(中村嘉壽君提出)

五 機船底曳網ニ關スル質問(北吟吉君外三名提出)

六 國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問(江藤源九郎君提出)

七 尾去澤鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關スル再質問(川俣清音君外一名提出)

八 帝國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ關スル質問(服部米次郎君外五名提出)

九 度量衡法改正ニ關シ調査會ノ審議ニ關スル質問(東武君外四名提出)

出

第一 昭和十年度歳入歳出總決算
昭和十年度各特別會計歳入歳出決算

第二 昭和十年度國有財産増減總計算書

第三 議院法中改正法律案(政府提出、貴族院回付)

第四 産業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第五 産業組合自治監査法案(政府提出、貴族院送付)

第六 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第七 百貨店法案(政府提出、貴族院送付)

第八 辦理士法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第九 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出、第一讀會)

第十 人造石油製造事業法案(政府提出、第一讀會)

第十一 讀會ノ續(委員長報告)

第十一 船員法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 農地法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 勞働組合法案(鈴木文治君外一名提出)

第一讀會

第十五 小作法案(杉山元治郎君外三名提出)

第一讀會

第十六 狩獵法中改正法律案(鈴木正吾君提出)

第一讀會

第十七 交通機關調整法案(田中好君外一名提出)

第一讀會

第十八 民法施行法中改正法律案(大石大君外三名提出)

第一讀會

第十九 航空事業獎勵法案(中村嘉壽君提出)

第一讀會

第二十 航空事業獎勵法案(末松愷一郎君外一名提出)

第一讀會

第二十一 民族優生保護法案(荒川五郎君外三名提出)

第一讀會

第二十二 恩給法中改正法律案(宮脇長吉君外一名提出)

第一讀會

第二十三 理容師法案(中山福藏君外十名提出)

第一讀會

第二十四 金錢債務臨時調停法廢止法律案(升田憲元君外十三名提出)

第一讀會

第二十五 行政裁判所法案(宮古啓三郎君提出)

第一讀會

第二十六 行政訴訟法案(宮古啓三郎君提出)

第一讀會

第二十七 訴願法案(宮古啓三郎君提出)

第一讀會

第二十八 權限裁判法案(宮古啓三郎君提出)

第一讀會

第二十九 行政裁判官懲戒法案(宮古啓三郎君提出)

第一讀會

第三十 民事訴訟法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出)

第一讀會

第三十一 觀光地助成法案(田中好君外一名提出)

第一讀會

第三十二 家事調停法案(坂東幸太郎君外四名提出)

第一讀會

第三十三 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(原口初太郎君外六名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十四 郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外三名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十五 六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(瀨川嘉助君外十名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

ニ於ケル齒科衛生ニ關スル質問ニ對スル
答辯書

衆議院議員佐藤與一君提出林内閣ノ政綱
政策並文教上ノ諸問題ニ關スル質問ニ對
スル答辯書

衆議院議員深澤豐太郎君提出帝都防火建
築ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員中村嘉壽君提出對滿對支政策
ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員北吟吉君外三名提出機船底曳
網ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員江藤源九郎君提出國有鐵道赤
穂線敷設ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員川俣清音君外一名提出尾去澤
鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關スル
再質問ニ對スル答辯書

衆議院議員服部米次郎君外五名提出帝國
在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ關ス
ル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員東武君外四名提出度量衡法改
正ニ關シ調査會ノ審議ニ關スル質問ニ對
スル答辯書

(以上三月三十日受領)

帝國陸海軍ニ於ケル齒科衛生ニ關スル
質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十一日

提出者 杉山元治郎

帝國陸海軍ニ於ケル齒科衛生ニ關ス
ル質問主意書

一 陸海軍ニ於ケル現在ノ囑託齒科醫ヲ
以テ齒科衛生上遺憾ナキヲ期シ得ルヤ

陸海軍ニ於ケル齒科衛生狀態ハ現在甚
ダ不良ニシテ殊ニ齒牙疾患少キ農山漁
村ヨリノ入隊者モ軍隊生活ノ關係上忽
チニシテ甚シク惡化スルノ狀況デア
カラ之ヲ豫防及治療上十分ナル施設ヲ
必要トスルノデアル然ルニ現在ニ於テ

陸軍ニハ各病院ニ齒科診療室アルモ其
ノ殆ンド全部ガ近傍ノ開業齒科醫ヲ囑
託シテ治療ニ當ラシメ大概一週二三回二
三時間宛ノ勤務ニ過ギナイカラ到底將兵
ノ治療ヲ全ウシ難ク義齒等ハ全ク行ハ
レテ居ラヌ狀況デア
ル況ンヤ進ンデ之
ガ豫防法ヲ講ズルガ如キコトハ思モヨ
ラズ又海軍ニ於テハ各海軍病院並ニ各
艦隊ニ齒科醫アリテ幸ニ何レモ專任者

ナルモ其ノ人員合計十三名ヲ出デズ是
ダケニテ數萬ノ海軍將兵ノ手當ヲスル
コトハ全ク不可能ナルコトデア
ル陸海
軍共ニ僅ニ重症者ニ對シ應急ノ處置ヲ
爲スニ過ギナイノデア
ル滿洲駐在部隊
ニ對シテハ各病院ニ齒科醫ヲ置クモ其
ノ數甚ダ少ク又内地ト異リ付近ニ開業
齒科醫ナキコトトテ誠ニ在滿將士ニ對
シテハ氣ノ毒ナル有様デア
ル陸海軍當局
モ色々心配サレテ時々囑託齒科醫ノ數
ヲ増加スル等ノ方法ヲ講ジテ居ラレヤ
ウデア
ルガ現在ノヤウナコトヲ行ツテ
居ルノデハ陸海軍將兵ノ健康上憂フベ
キ點ガ非常ニ多イ政府ハ如何ニシテ此

ノ缺陷ヲ充サントスル考デア
ルカ

二 現在ニ於ケル陸海軍齒科衛生上ノ施
設ヲ以テ平時及戰時ニ對處シテ之ガ調
査研究上遺憾ナキヲ期シ得ルヤ
前ニ述ベタ如ク現在ハ平時應急ノ手當
モ困難ナ狀況デア
ル況ンヤ戰時ニ對シ
如何ナル準備ヲシテヨ
イカ之ガ調査研
究ニ甚ダ不完全ナリト言ハザルヲ得ナ
イ然ルニ一朝大國ガ互ニ兵ヲ交ヘルコ
トニナレバ勢戰爭ハ長期ニ互リ兵ノ齒牙
ハ非常ニ惡クナル又歐洲大戰ノ際ニハ
齒牙口腔ノ病氣ガ殊ニ多カツタ許リデ
ナク顎骨病院ガ特ニ設立サレタ程口ヤ
顎ノ損傷ガ多クナツタ是等ノ病理治療
ニ關シ平時カラ十分ナル調査研究ガ必
要デア
ル陸軍、海軍軍醫學校デハ口腔
外科ヲ教ヘテ居ルヤウデア
ルガ其ノ規
模ガ小サク甚ダ遺憾デア
ル又戰時齒科
衛生ニ從事スル人々ヲ養成スルヤウナ
機關モナク方法モ付イテ居ナイ何等此
ノ方面ニ訓練ナキ開業齒科醫ヲ動員シ
テ急場ノ間ニ合セルノデハ不十分ナル
コト言フ迄モナイ我ガ陸海軍ハ有ラユ
ル點ニ於テ整備サレ又多額ノ經費ヲ投
ジテ整備ヲ急イデ居ルノデア
ルガ何故
カ齒科衛生ノ事ニハ無頓著デア
ル

三 毎年幹部候補生トシテ入隊シツツア
ル齒科醫學專門學校卒業生ニ對シ特別
ナル待遇ヲ與フル意圖ナキカ
我ガ國ニハ男子ノ齒科醫學專門學校ガ
七ツモアル其ノ卒業生ニシテ幹部候補

生トシテ軍隊ニ入營スルモノガ毎年百
名以上デ昨年度ニ於テモ百九名ニ上ツ
テ居ル其ノ全部ガ普通ノ兵トシテ服務
シテ居ルノデア
ルアツテ折角專門ノ知識技
能ヲ持チナガラ少シモ軍隊デ活用サレ
テ居ナイ齒科衛生設備ノ不完全ナ今日
甚ダツマラスコトデハナイカ何トカ是
等ノ齒科醫專卒業生ヲ專門家トシテ活
カシテ國家ニ御奉公ヲサセル工風ハナ
イカ其ノ中ニハ滿洲國ニ於テ普通ノ兵
トシテ服務シテ居ル者ガアル是等ハ殊
ニ大ニ考慮スル餘地ガアル專門學校卒
業迄中學カラ引續キ十箇年ノ學校教練
ヲ經テ來テ居ルモノデア
ルカラ普通ノ
兵トシテ其ノ訓練ヲ加ヘズトモ齒科衛
生ノ方面ニ從事セシムルコトガ國家ノ
爲利益スル所ガ非常ニ多イノデハナイ
カト思フ

四 陸海軍ニ齒科軍醫ヲ設置スルノ計畫
ナキカ

以上述べタヤウニ陸海軍ハ齒科衛生上
ノ施設ガ極メテ不十分デア
ル軍隊ニハ
精神力ト共ニ體力ガ必要デア
ル體力ノ
根源ハ榮養デア
ルアツテ榮養ノ根源ハ咀嚼
デア
ル此ノ點カラモ何故齒科ニモツト
陸海軍ガ重キヲ置イテ考ヘナイノデア
ルカ私ニハ寧ろ不思議ニ思ヘルノデア
ル而シテ軍隊ニ於ケル齒科施設ヲヤツ
テ行クニハドウシテモ齒科軍醫ノ制度
ヲ設ケナケレバナラナイノハ言フ迄モ
ナイノデア
ル第六十三回議會以來連年

本院ニ於テハ陸海齒科軍醫設置ノ請願
ガ採擇サレ建議モ通過シテ居ルノデア
ルガ其ノ實現ノ模様ガナシ陸海軍ニ於
テモ軍政調査ノ一項目トシテ此ノ問題
ヲ採リ上ゲテ居ラレルヤウデアガ現
在如何ナル處マデ進ンデ居ルノデア
カ規律ト訓練ノ殊ニ尊バレル軍隊ニ於テ
又階級ノヤカマシイ軍隊ニ於テ囑託制度
ノ儘幾ラ人員ヲ増シテモ本當ノ成績ヲ
得ルコトガ出來ナイドウシテモシツカ
リシタ制度ヲ設ケナケレバナラスノデ
アル歐米各國ニ於テハ何レモ平時數百
人ノ齒科軍醫ヲ置キ其ノ教育訓練ノ爲
學校病院ヲ設立シ戰時ノ爲ニハ數千人
ノ豫備齒科軍醫ガアル歐洲大戰ノ際出
征部隊兵員五百人ニ付一人ノ齒科軍醫
ヲ派遣シタト云フコトデアアル有ル點
ニ於テ各國ニ優レタル我が陸海軍ハ此
ノ設備ヲ今現ニ缺イデ居ル爲ニ將兵共
ニ現ニ平時ニ於テモ齒牙疾患ニ悩ンデ
居ルノデアアル之ハ制度ヲ新ニ作ルコト
ガ困難ナノカ其レトモ經費ガナイノデ
アルカ何レニシテモ其ノ必要ヲ認メテ
之ヲ實現セントスル熱意サヘ有ルナラ
バ當局ノ決心ニ依テ今日ニモ直グ出來
得ルコトデアアル政府ハドウ考ヘラ
ルカ又齒科軍醫トシテ之ヲ實現スルコト
ハ只今ノ所困難デアアルノカ或ハ特種ナ
文官トシタナラバ實現可能ナリトノ説
モアルトノコトデアアルガ其ノ邊ノコト
ニ付テ當局ノ御答ヲ願ヒ是非軍隊ニ於

ケル齒科衛生ノ充實ノ爲御盡力アラシ
コトヲ希望スルノデア
右及質問候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員杉山元治郎君提出帝國陸海軍
ニ於ケル齒科衛生ニ關スル質問ニ對シ別
紙答辯書差進候也

(別紙)

衆議院議員杉山元治郎君提出帝國陸海軍
ニ於ケル齒科衛生ニ關スル質問ニ對
スル答辯書

一 陸軍ニ於テハ囑託齒科醫ノ數、勤務
日數及時間ハ患者數ニ應ジテ適當ニシ
以テ齒科診療ニ遺憾ナカシメ且齒科
衛生一般ニ關シテハ現施設ヲ以テ遺憾
ナキヲ期シツツアリ

海軍ニ於テハ新兵入團ニ際シ特ニ齒牙
ノ健康診斷ヲ行ヒ必要ナル治療ヲ施シ
又艦船乗員ニ對シテハ其行動作業ノ關
係上主タル齒科治療ハ可成母港在泊中
海軍病院ニテ之ヲ完了セシメ出勤後ハ
應急處置ニ止ムルヲ目途トシ各海軍病
院、艦隊等ニ夫々必要ナル專任齒科醫
ヲ置キ尙海軍軍醫學校ニ於テハ軍醫科
士官ヲシテ齒科應急治療ニ差支ナキ様
教育シツツアリ、然レドモ近時人員ノ
増加ニ伴ヒ囑託齒科醫ノ現狀ヲ以テシ
テハ幾分不足ヲ感ズルニ至レルヲ以テ

十二年度ニ於テハ若干其數ヲ増シ齒科
衛生上遺憾ナキヲ期シツツアリ

二 海軍現役軍醫科士官中ニハ齒科口腔
外科ノ專門家アリ且ツ前項ニ述ベタル
如ク囑託齒科醫ノ増員ヲモ計畫シ各部
密接ナル連絡ヲ執リ平時戰時ニ對スル
調査研究ニ遺憾ナキヲ期シツツアリ

陸軍ニ於テハ概ネ海軍ト同様ナルモ軍
醫學校ニ於テ齒科ノ研究調査及教育ヲ
實施シアリテ平時戰時ニ於ケル調査研
究ニ遺憾ナキヲ期シツツアリ

三 陸軍ニ於テハ第四項ノ研究ト關聯シ
テ研究中ナリ

海軍ニ於テハ該當事項ナシ

四 陸海軍共ニ囑託齒科醫制度ノ改善ニ
關シ目下研究中ナリ

昭和十二年三月三十日
海軍大臣 米内 光政
陸軍大臣 杉山 元

林内閣ノ政綱政策並文教上ノ諸問題ニ
關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十一日

提出者 佐藤 與一

林内閣ノ政綱政策並文教上ノ諸問題
ニ關スル質問主意書

一 我が肇國ノ理想ニ關スル件
林内閣總理大臣ハ組閣ノ大命ヲ奉ジテ能
ク其ノ任ヲ全ウシ所謂清新摯實ナル内閣
ヲ組織シタリ而シテ其ノ政綱ヲ發表スル

ニ當リ 聖旨ヲ奉體シテ我が國體ノ本義
ニ基キ肇國ノ理想ヲ顯現スルヲ以テ施政
奉行ノ本ト爲スベキコトヲ宣明セリ
凡ソ首相タル者ハ嘗ニ内閣ノ首班トシテ
國政ヲ統宰スルニ止ラズ我が國民ガ之レ
ニ向ツテ進ムベキ大理想ヲ普ク中外ニ宣
布シ國民ノ先頭ニ立チテ之レヲ率キルノ
慨ナカルベカラズ

謹ンデ案ズルニ天業ヲ恢弘シ天下ヲ光宅
トナシ六合ヲ兼ネテ都ヲ開キ八紘ヲ覆ウ
テ宇ト爲サムコトハ之レ我が肇國ノ大理
想ニシテ萬世一系ノ我が皇室ガ 天皇ノ
赤子トシテ愛撫セサセ給フ臣民ヲ率キ此
ノ大理想ニ向ヒ進マセ給フコトハ之レ我
ガ皇祖皇宗以來ノ鞏固ナル傳統ニシテ我
ガ尊嚴ナル國體ノ精華ナリ即チ我が皇室
ノ御稜威ヲ世界ニ擴充シ皇恩ヲ六合ニ光
被セシメ以テ世界ニ於ケル道德政治ノ完
成ヲ期スルコトハ實ニ我が肇國ノ理想ヲ
實現スル所以ノ道ナリト信ズ林内閣總理
大臣ノ所謂肇國ノ理想トハ抑、之レヲ謂
フモノナリヤ又他ニ在ルモノアリヤ敢テ
林内閣總理大臣ノ所見ヲ問フ

二 國運進暢ノ源流ニ關スル件

林内閣總理大臣ハ其ノ政綱ノ第一項トシ
テ國運進暢ノ源流ヲ深カラシムル爲國體
觀念ヲ愈、明微ニシテ敬神尊皇ノ大義ヲ
益、闡明シ祭政一致ノ精神ヲ發揚セムコ
トヲ高調セリ我が國體ノ萬邦無比ナルコ
トハ何等言説ノ要ナシト雖モ之レガ觀念
ヲ明微ナラシメムニハ幾多具體的案件ナカ

ルベカラズ

近時政局ノ變異ニ際シ誠ニ憂慮スベキ事象ナシトセズ大命降下ノ際ニ於ケル問題之レナリ畏クモ一旦 陛下ノ親任ヲ辱ウシ組閣ノ恩命ニ接セル者ハ必ズ謹ミテ之レヲ拜受シ萬死以テ其ノ責ヲ果タスベク國民ハ舉ゲテ之レガ支援ニ協力スベシ之レ我ガ國體觀念ノ然ラシムル所ニシテ猥リニ自ラ己レノ健康ヲ顧慮シテ拜辭スベキニ非ズ又國民ハ舉ツテ之レヲ援助シテ組閣ノ大任ヲ遂ゲシムルコトニ努ムベシ苟モ組閣ノ大命ヲ拜シタル者ニシテ國民一部ノ支援ヲ失ヒ爲ニ閣僚ヲ得ル能ハズ以テ大命ヲ拜辭スルニ至ルガ如キハ之レ 陛下ノ聖明ヲ覆ヒ奉ルモノニシテ國體觀念ト相容レザル所ナリ今之レヲ最近ノ事實ニ徴スルニ陸海軍大臣ヲ現役ノ大中將ニ限ルト制限セル陸海軍官制ノ改正ハ正ニ如上ノ結果ヲ將來セルモノニシテ遺憾限リナシ

内閣總理大臣ハ速ニ陸海軍官制ヲ改正シ陸海軍大臣ノ資格制限ヲ一層緩和セムトスル意思アリヤ否ヤ抑、天皇ノ稱號竝ニ國號ノ尊重ハ愛國心ヲ喚起スル一大原由ニシテ愛國心ノ涵養ハ國體觀念ヲ一層明微ニスル所以ナリ然ルニ歷代ノ内閣ハ甚ダ之ヲ輕視シ之レニ對シテ努力セル所鮮少ナルガ如シ謹ンデ案ズルニ「大日本帝國 天皇」ノ御尊稱ハ帝國憲法ニ於テ嚴然一定セラルル所ナルニ拘ラズ政府ハ條約文等ニ於テ此

ノ固有ノ御尊稱ニ代フルニ「アンペリユー」ル、「エムペラー」等ノ語ヲ使用シツツアルハ恐懼ニ堪ヘザル所ナリ

我が大日本帝國ノ國號モ亦憲法ノ明示スル所ニシテ國民ハ之レニ據リテ之レヲ稱呼セザルベカラズ然ルニ之レヲ外ニシテハ政府ハ條約文其ノ他ニ於テ自ラ外國ノ舊慣ニ依ル「ジャボン」、「ジャパン」、「ヤーパン」等ノ語ヲ使用シツツアリ又之レヲ内ニシテハ「ニッポン」及ビ「ニホン」兩様ノ稱呼竝ビ用ヒラレ國民ハ其ノ適從スル所ニ惑フ斯ノ如キハ國體觀念ヲ明微ニシ國民精神ヲ作興スル所以ニ非ズ政府ハ宜シク速ニ一層我が國號ヲ尊重シ其ノ稱呼ヲ統一スルコトニ努力セザルベカラズ外務大臣ハ外國トノ條約文等ニ於テ「アンペリユー」、「エムペラー」、「ジャボン」、「ジャパン」等ヲ使用スルコトヲ廢シ其ノ固有ノ御尊稱竝ニ稱號ヲ使用セムトスル意思ナキヤ又外務大臣ハ商工省ノ努力ニ依リ「メード、イン、ニッポン」ノ標識ヲ附シテ輸出セラレタル商品ガ陸揚ゲヲ拒マルルガ如キ失態ナキヤウ通商條約及ビ其ノ附屬ノ規定ヲ改正セムトスル意思ナキヤ

文部省ハ小學教育ニ於テ其ノ兒童ヲシテ我が國ヲ稱呼セシムルニ「ニッポン」ヲ以テセリ文部大臣ハ小學校以上ノ各種學校竝ニ其ノ他ノ教育機關ヲシテ之レヲ勵行セシメムトスル意思ナキヤ陸軍大臣及ビ海軍大臣ハ全國ノ壯丁、現

役軍人竝ニ在郷軍人ヲシテ一定セル國號ノ稱呼ニ據ラシメムトスル意思ナキヤ大藏大臣竝ニ商工大臣ハ其ノ監督ノ下ニアル銀行會社等ノ中其ノ名稱ニ「大日本」「日本」等ヲ冠スルモノニ對シ之レヲ「ニッポン」ト稱呼スベク統一セムトスル意思ナキヤ

更ニ内閣總理大臣ハ我が大日本帝國 天皇ノ御尊稱、國號竝ニ帝國ノ理想トスル大使命ニ關シ大ニ内外ニ宣布セムトスル意思ナキヤ凡ソ國體觀念ヲ明微ナラシメムトスル方策種々アルベシト雖モ先ヅ國史、國語等ヲ尊重シ我が國固有ノ良風美俗ヲ保存助長スルコト等ニ其ノ指ヲ屈セザルベカラズ然ルニ歐米文明模倣時代ノ餘弊ヨリ脫却スル能ハズ故ラニ我が國ノ古史ニ荒唐無稽ノ說ヲ加ヘ我が神聖ナル國史ヲ汚サムトスルガ如キハ政府ノ嚴ニ戒メザルベカラザル所ニシテ國語ノ尊重モ亦大ニ忽ニスベカラズ而シテ文部省臨時國語調查會ニ於テ決議セル國語假名遣改定案ハ我が國語ノ有スル特色タル點詞ノ活用ヲ度外視シ靈妙ナル我が國語ノ生命ヲ奪ハムトスルモノナリ文部大臣ハ之レガ使用ヲ國民ニ強フルノ意思アリヤ否ヤ又國語ノ記載法ニ至リテハ縱書橫書ノ別アリ橫書ニハ右橫書アリ左橫書アリ又彼ノ送り假名法ノ如キモ區々ニシテ一定ノ法則ナシ文部大臣ハ國語記載ノ方法ヲ統制スル必要ヲ認メザルヤ

國民ノ衣食住ニ歐風ノ加味セラルルハ敢テ之レヲ排スルノ必要ナカルベキモ故ラニ我が國固有ノ衣食住ヲ賤ムノ風尙ハ國民精神作興ノ爲遺憾ノ點ナシトセズ政府ハ我が國古來ノ式服タル紋服、紋附羽織、袴ヲ以テ通常禮服ノ一種トナスノ要ヲ認メザルヤ

三 青年教育振興ニ關スル件

國運進暢ノ源流ハ教育ヲ尊重スルニアリ特ニ國家永遠ノ將來ヲ思念スル時青年教育ノ片時モ忽諸ニ附スベカラザルヲ痛感スルモノナリ國家ハ官立大學ニ於ケル青年教育ノ爲年額一人數百圓ヲ費スニ比シ上級學校ニ入學スル途ナキ都市及ビ農村青年ノ教育ニ對シテハ男子青年團ノミニ就イテ見ルモ其ノ費ス所極メテ僅少ニシテ大日本聯合青年團ヘノ補助年額ハ三萬圓ニ過ギズ政府ハ青年教育振興ノ爲此ノ補助金ヲ増額シテ數十萬圓程度ニ至ラシムルト共ニ大日本女子聯合青年團ニ對スル補助金モ亦之レニ準ジテ増額スベク特ニ青年及ビ青年團ノ使命ノ益、重大ナルニ鑑ミ青年教育振興ヲ以テ重要國策ノ一ニ加ヘ且ツ之レニ關スル調查機關ヲ設置スル必要アリト信ズ此レ等ノ點ニ關スル内閣總理大臣、文部大臣、大藏大臣、陸軍大臣、海軍大臣及ビ農林大臣ノ所見如何

四 神祇ニ關スル特別政廳ノ設置ニ關スル件

抑、敬神尊 皇ノ大義ヲ闡明シ祭政一致ノ精神ヲ發揚セムトスルハ林内閣ガ掲ゲタル

ル特異ノ政綱ナリ而シテ敬神尊皇ノ大義ハ國民一般ノ體得セザルベカラザル所之レニ違背スルヲ以テ非國民トナス祭政一致ノ政治亦必ズシモ上代ト現今ト同一ナラズト雖モ祭事ノ重シズベキハ我が國ノ特色ニシテ益之レガ精神ノ擴充ヲ計リテ始メテ我が國體觀念ヲ明徴ナラシムベシ之レ神祇ニ關スル特別政廳ヲ要スル所以ニシテ而モ此ノ政廳タル我が國神祇ノ特異性ニ鑑ミ之レヲシテ他ノ官廳ノ下位ニ立タシムベキモノニ非ズ最高位ニ特立シ以テ其ノ神聖ヲ保持スルノ要アリ内閣總理大臣ハ神祇ニ關スル此ノ種ノ特別政廳ヲ設置スルノ急務ナルコトヲ痛感セラレザルヤ

五 學生ノ精神訓育ニ關スル件

近時各種ノ犯罪中所謂智能犯ト稱シ學識經驗ヲ有スルモノニシテ已レガ有スル此レ等ヲ惡用シテ犯行ヲ爲ス者極メテ多ク又最高ノ學府ヲ出デタル者又ハ在學中ノ者ニシテ其ノ中庸ヲ失ヒ左右兩翼ニ趨ル者亦尠カラザルヲ見聞シ國家教學ノ爲塞心ニ堪ヘザルモノアリ

惟フニ學校ニ於テ施ス所ノ精神訓練ハ小學教育ニ於テ最モ多ク留意セラルルニ拘ラズ上級ノ學校ニ進ムニ從ヒ漸ク弛緩ヲ來タシ僅ニ教練科ニ於テ多少ノ精神訓育ヲ施スニ過ギズ是レ如上ノ結果ヲ將來セ

ル原因ニアラザルナキカ
四大節ノ祝賀式、卒業式等ニ於テ國歌ヲ奉唱シ勅語ヲ捧讀スルハ小學校、中等諸

學校、高等學校等ニ止マリ高等專門學校、大學等ニ於テ之レヲ實施セル例甚ダ稀ナリ然ルニ今年紀元節ニ際シ東京帝國大學ニ於テハ長與總長以下教職員、學生全部安田講堂ニ參集シ一同國歌ヲ奉唱シ教育勅語ヲ捧讀等アリシト云フ斯ノ如キハ學生生徒ノ精神訓育上其ノ效果ノ極メテ大ナルモノアルヲ信ズ文部大臣ハ他ノ大學並ニ高等專門學校ヲシテ此ノ實例ニ倣ハシメ以テ學生生徒ノ訓育ニ資セムトスルノ意圖アリヤ否ヤ
右及質問候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員佐藤與一君提出林内閣ノ政綱政策並文教上ノ諸問題ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員佐藤與一君提出林内閣ノ政綱政策並文教上ノ諸問題ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、我が肇國ノ理想ニ關スル件

我が肇國ノ理想ニ付テハ大體同感ナリ

二、國運進暢ノ源流ニ關スル件

一、陸海軍官制ノ改正ヲ奏請シ、陸海軍大臣ノ資格制限ヲ緩和セムトスルノ意

思ハ、之ヲ有セズ
一、我が國ト外國トノ條約ノ外國語文ニ於テ、「アンベリール」「エムペラー」

「ジャボン」、又ハ「ジャバン」等ヲ、夫夫ノ外國語ニ於テ使用スルコトハ、外國語文トシテハ、事實已ムヲ得ザルモノト思料セラルルモ慎重考慮中ナリ
一、「メード・イン・ニッポン」ノ標識ヲ附シテ輸出セラレタル商品ガ、陸揚ゲヲ拒マルルガ如キコト無キ様、通商條約及其ノ附屬ノ規定ヲ改正スルコトハ、目下ノ處、早急ニハ實現不可能ト思料セラル

一、國號ノ稱呼ヲ統一シテ小學校以上ノ各種學校並ニ其ノ他ノ教育機關ヲシテ、之ヲ厲行セシムルコトニ付テハ、考慮ヲ要スルモノアリト思料セラル
一、全國ノ壯丁、現役軍人、並ニ在郷軍人ヲシテ、一定セル國號ノ稱呼ニ據ラシムルコトニ付テハ、考慮ヲ要スルモノト認ム

一、大藏省並商工省ノ監督下ニアル銀行會社等ノ中、其ノ名稱ニ「大日本」「日本」等ヲ冠スルモノニ對シ、之レヲ「ニッポン」ト稱呼スベク統一スルコトニ付テハ、尙篤ト考慮ノ要アルモノト思料セラル
一、肇國ノ理想ヲ顯現シ、帝國ノ大使命ヲ宇内ニ宣明スルハ時局ニ顧ミ適當ナリト認ム

一、曩ニ、臨時國語調查會ニ於テ決議セル國語假名遣改定案ハ、昭和六年ニ修正ヲ加ヘ、昭和九年國語審議會組織セラルルニ及ビ、更ニ該會ニ於テ再審議

中ナリ

一、教科書用圖書ニ於テハ既ニ國語ノ記載法ハ之ヲ一定シテ居レリ、即チ普通ノ國語ハ、勿論縦書トスレドモ、外國語或ハ數式、數字等ヲ多ク記載スル圖書ニ在リテハ、左横書トシ、尙是等ノ圖書表題ヲ横書トスル場合ニハ、我が國古來ノ慣例ニ從ヒ、右横書カシムルコトトシ居レリ、又送假名法ニ付テハ、曩ニ、國語調査委員會ニ於テ決議セル案ヲ參考トシテ、教科用圖書ニ在リテハ、一定ノ法則ヲ定メテ之ヲ使用シ、以テ其ノ標準ヲ示シ居レリ

一、紋服、紋附羽織、袴ヲ以テ通常禮服ノ一種ト爲ス事ニ付テハ、慎重考慮ヲ要スベキモノト思料セラル
三、青年教育振興ニ關スル件

刻下、我が國內外ノ情勢ハ、青年教育ヲシテ一層振興セシムルノ要切ナルモノアリ、政府ハ之ガ爲、其ノ方策ニ關シ考究中ナルモ、特ニ調査機關ヲ新設スベキヤ否ヤニ付テハ、今後篤ト考究セントス、大日本聯合青年團、大日本女子青年團ノ使命ノ重大ナル點ニ付テハ同感ナルガ、是等ニ對スル補助金ニ關シテハ、將來財政上ノ關係ヲ考慮シテ慎重考究スヘシ

四、神祇ニ關スル特別政廳ノ設置ニ關スル件

神祇ニ關スル特別政廳ノ設置ニ關シテハ、慎重考慮ヲ要スベキモノト思料セラル

五、學生ノ精神訓育ニ關スル件

一月一日、紀元節、天長節、明治節等ノ式典ニ際シ諸學校ニ於テ、國歌ヲ奉唱シ、勅語ヲ捧讀スルコトハ精神訓育上極メテ重要ナルコトナルヲ以テ、小學校中等諸學校高等學校ニ於テノミナラズ、高等專門學校大學等ニ於テモ概ネ實施シツツアル所ナルガ、今後一層學生生徒ノ訓育上留意シ遺憾ナキヲ期セントス
右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

文部大臣 林 銑十郎

農林大臣 山崎達之輔

海軍大臣 米内 光政

商工大臣 伍堂 卓雄

大藏大臣 結城豊太郎

陸軍大臣 杉山 元

外務大臣 佐藤 尚武

帝都防火建築ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十三日

提出者 深澤豊太郎

帝都防火建築ニ關スル質問主意書

大正十二年九月ノ大震災ハ死傷者十五萬七千人、損害額五十五億圓ニ達シ其ノ慘憺タル光景ハ今尙吾人ノ記憶ニ血腥イ暗影ヲ投ジテキル

其ノ後十三年ヲ經過シタル今日道路ヤ橋梁ハ殆ンド完全ニ復興シタルノデアルガ都

市生活上最モ重要デアリ生命財産迄モ脅カサレル火災ニ對スル民間ノ家屋ノ復興ガ遲々トシテ進捗シナイノハ一面民間ノ經濟力ノ薄弱性ヲ物語ルモノデアアルガ反面ニ政府ノ對策モ機宜ヲ得ザルモノガアルノデハナカラウカ

本造建築ノ日本デハ年々多大ノ生命ヤ財産ヲ火災ノ爲失ツテキル火災ノ爲ノ死傷者ハ一年間ニ三四千人ニ達シ建築物ノ燒失額ハ毎年實ニ五千萬圓ヲ超過シテキル之ニ家具調度ノ損害、營業ニ關スル損害等ヲ加算スルト實際ノ損害額ハ此ノ數倍ニ達スルデアラウ

此ノ火災ニ對スル防備ノ第一ハ燒ケヌ家「鐵筋コンクリート」ノ家ヲ造ルコトデア

大正十三年政府ハ東京横濱兩市ノ中樞ニ防火地區ヲ制定シ其ノ地區内ノ建築ニ一定ノ規格ヲ定メルト共ニ「バラック」建築ノ除却期限ヲ定メタルノデアルガ之モ延期ニ延期ヲ重ネテキル有様デアアル

現在東京ノ防火地區ノ坪數ハ百五十八萬六千坪デ其ノ中防火構造ノ本建築ハ現在大體千五六百棟ニ過ギズ残り二萬五千棟ハ今尙「バラック」建築デアアル其ノ「バラック」モ今日迄二回延期サレテキル來年八月迄ニハ全部本建築ニナル規定ニナツテキルガ政府ニ於テハ果シテ其ノ準備ガ出來テキルカ

火災ノ防備ノミナラズ防空上ノ見地カラシテモ今後防火建築ノ完成ハ緊急事デア

ル又近ヅク「オリムピック」ノ爲ニモ不體裁ナ「バラック」ヲ一日モ早く取除キタイモノデアアル

政府ハ防火地區内ノ本建築ニ對シテ坪當リ五十圓ノ補助金ヲ交付シテキルガ現在殘ツテキル六百萬圓ノ補助金デ百五十萬坪ノ防火地區ガ完成サレルトハ思ヘレナイ之デハ昭和十三年八月ト定メタル「バラック」除却期限モ遂ニ空文ニ終ル結果トナリハセヌカ政府ノ之ニ對スル所見ヲ求ム

思フニ耐火建築ノ不振ハ前述ノ如ク民間ノ經濟力ノ薄弱ナルコトニ基因スルノデアルガ政府デハ民間ニ對シ建築資金融通ノ途ヲ開ク爲ニ六千萬圓ヲ限度トシテ東京横濱兩市ニ預金部低利資金ヲ貸付ケ兩市ハ此ノ資金ヲ以テ當時財界ノ有力者十數名ノ發起ニ依テ設立サレタル復興建築助成株式會社ニ建築助成ノ事業ヲ委託シタルノデアル而シテ兩市ハ此ノ會社ニ對シテ無條件ニ年八分ノ配當ト損失全額ノ補給トヲ保證シタルノデアル此ノ重大ナル公共的事業ヲ一營利機關ニ委ネタルガ抑々

復興建築失敗ノ第一歩デアツタ
現在復興建築助成會社カラ資金ヲ借入レテ建造シタル耐火建築ハ約七百棟アルガ其ノ實情ヲ見ルニ殆ンド全部ガ資金ノ償還ニ苦シミ金利スラモ支拂ヘナイモノガ半數以上アリ建物ヲ競賣サレタモノガ一割ニ上ツテ居ル有様デアアル其ノ原因ヲ考察スルニ此ノ會社ハ年八分ノ株主配當ト放慢ナル營業費ヲ支出スル爲ニ貸付金ニ對

シ年二分五厘ノ利鞘ヲ取得シ延滞金ニ付テハ容赦ナク日歩四錢ノ損害金ヲ建築者ニ負擔セシムル結果彼等ハ其ノ支拂ニ塗炭ノ苦シミヲ嘗メテキルノデアアル

帝都復興ノ裏ニ建築者ガ斯ノ如キ悲惨ナル境遇ニアルコトハ既ニ世間周知ノ事實デアアル昨年來内務省警視廳デハ防火建築ノ普及ニ大重ノ宣傳ヲシテキルガ一向其ノ實績ノ上ラナイ原因ハ此ニ存スルノデアル曩ニ法令ヲ遵守シ政府ノ復興方針ニ從ツテ帝都復興ノ先驅ヲ爲シタ善良ナル市民ガ今ハ不拂ノ汚名ヲ受ケテ經濟死線ヲ彷徨セルニ拘ラズ之ガ救済ノ方法ヲ講ゼザルガ如キハ社會思想ニ及ボス影響重大ト言ハネバナラナイ

復興建築會社デハ昭和十年以後新規ノ建築助成ガ一件モナク純然タル一整理會社トナツテキル狀態デアアル斯ク如キ事業不振ニモ拘ラズ八分配當ヲ繼續シテキルノデアアル聞ク所ニ依レバ今此ノ會社ヲ清算スレバ約九百萬圓ノ損失ガアルト言ハレテキル之ヲ此ノ儘ニ放置スレバ將來數千萬圓ノ損失ガ兩市民ノ負擔ニナルノデア

ル
帝都復興ノ重大事業ヲ一營利會社ニ委託シ助成ノ美名ニ隠レテ市民ノ膏血ヲ絞リ三十年間八分配當ヲ繼續シ而モ兩市ガ之ヲ保證セルガ如キハ天下無類ノ會社デア

シテ政府ハ之ニ對シテ如何ナル措置ヲ講
ジラレツツアリヤ

最近ニ至リ該會社ヲ解散セシメテ本事業
ヲ市ノ直營ニ移管スベシトノ論ガ各方面
ニ起リツツアリト聞クガ最モ妥當ナル方
策ナリト信ズ

斯クシテ既建築者ノ負擔ヲ輕減シ其ノ經
濟更生ヲ企圖スルト共ニ將來建築セント
スル者ニ對シテモ成ルベク長期低利資金
ノ融通ヲ爲シ政府補助金ノ如キモ現在ノ
倍額位ニ増額スレバ漸次復興建築ノ完成
ヲ期待シ得ルモノト信ズ此ノ點ニ關シ政
府ノ所見如何
即チ

- 一 防火地區内ノ建築ニ關スル件
- 一 防火地區内建築助成ニ關スル件
- 一 復興建築會社ニ關スル件
- 右及質問候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員深澤豐太郎君提出帝都防火建
築ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員深澤豐太郎君提出帝都防火建
築ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、防火地區ノ制度ガ都市ノ防火防空上
極メテ緊要ナル施設ニシテ地區内耐火
建築ノ完成ノ急務ナルハ夙ニ痛感スル
所ナリ、此ノ故ニ東京及横濱兩市ニ於

ケル大正十二年九月ノ震災ニ依リ火災

ニ罹リタル區域内ノ防火地區ニ於テハ
大正十三年度以降昭和十三年度迄防火
地區建築補助金ヲ交付シテ助成ヲ圖ル
ト共ニ他面假設建築物ノ除却期限ヲ定
メテ耐火建築ノ促進ニ努メツツアル處
ナルモ右除却期限ハ昭和十三年八月到
來スルヲ以テ一層右ノ促進ニ對シ努力
致度

一、東京横濱兩市ニ於ケル防火地區内ニ
於テハ前項ノ如ク耐火建築ノ助成ヲ圖
リツツアルモ耐火建築ノ促進ハ諸般ノ
事情特ニ市民ノ經濟力ノ如何ニ左右セ
ラルル處少カラズ、從來所期ニ副ハザ
ルノ憾アリシモ近時幾分經濟界ノ活況
ヲ呈シタルニ鑑ミ今後一段ノ努力ヲ拂
フト共ニ將來一層之ガ助成ヲ圖ルベキ
ヤ等ニ關シテハ國家財政ノ都合等ニ照
シ考究致度

一、復興建築助成株式會社ノ事業成績ニ
關シテハ其ノ事業ノ緊要性ト市民負擔
ニ及ボス影響ノ緊要性トニ鑑ミ之ガ對
策ニ關シテハ慎重考究ヲ遂ゲ遺憾ナキ
ヲ期セムトス
右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

内務大臣 河原田稼吉

對滿對支政策ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十三日

提出者 中村 嘉壽

對滿對支政策ニ關スル質問主意書

對支問題ノ重要ナルハ今更贅言ヲ要セス
然ルニ近時支那ニ於テ中央地方ヲ通シ抗
日氣分ノ益、濃厚ナル今日ヨリ甚シキハナ
シ我カ國ト古來ヨリ深密ナル關係ヲ有シ
同種同文ノ隣邦國タル支那ニシテ斯ノ如
キ狀態ニアルハ日支兩國ノ爲將又東洋平
和ノ爲眞ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ
更ニ他方滿洲人中ニモ未タ十分日本ニ理
解ヲ有セサルノミナラス甚シキハ親露、
親支主義ヲ唱フル者サヘアルハ斷シテ輕
視スル能ハサルモノアリ茲ニ於テ何等カ
ノ對策ヲ講シ有效適切ノ舉ニ出ツルヲ要
スヘシト信ス

惟フニ天下ヲ治ムルハ德ヲ以テ第一トス
ヘク德治ナキ政事ニハ信ナク信ナキ政事
ハ民ノ心服ナシ我カ國ハ東洋ノ安定勢力
トシテ又盟主トシテ東亞ノ運命ヲ雙肩ニ
荷フ立場ニアルヲ以テ德ヲ以テ滿支ニ臨
ミ信ヲ以テ彼等ヨリ信賴ヲ受クル用意ナ
カルヘカラス又賞罰ヲ明ニシ德ニ報ユル
ニ德ヲ以テシ報本反始ノ古道德ヲ實踐ス
ルコトハ政事ニ缺クヘカラサル信條ナリ
ト信ス故ニ一身同體タル滿人ニ對シ此ノ
道ヲ行ハムカ滿人悉ク我ニ信賴ヲ寄せ滿
人ノ信賴生スレハ亦以テ支那ノ信賴ヲ博
スルニ足ラム滿人ニ對シテハ親日的有爲
ノ人材ハ之ヲ優遇シ又反日人士ニ對シテ
ハ之ヲ理解ヲ深ムルニ努メサルヘカラス
然ルニ往々ニシテ事此ニ出テサルモノア
ルハ最遺憾トセサルヲ得ス一例ヲ舉クレ

ハ滿洲建國ニ當リ功勞顯著ナル滿洲人士

ニシテ今日逆境ニ沈淪スル者アリ又當日
ノ反日家ニシテ今日却テ日本ニ優遇セラ
ル滿人高官アリ斯クシテ我カ國ノ政道
ヲ明徴スルコト甚タ遠ク滿支兩國ト我カ
國トノ關係ヲ疎隔スルコト多大ナリト謂
ハサルヘカラス之ヲ歴史ニ徵スルニ數千
年ノ歴史ト文化ヲ有スル漢族ヲ當時比較
的文化低キ滿族カ克ク治メ人心ヲ收攬セ
シ所以ハ一ニ清朝カ漢人中ノ親清家タル
人材洪承疇等ヲ極力優遇シタルニ因ル惟
フニ日滿支ハ人種、言語、文學其ノ他幾
多共通點ヲ有スル立場ナルヲ以テ此ノ間
ノ原理、事情ヲ十分討究シ以テ之ヲ實行
ニ移シテ善處セハ日滿支ノ友好關係ハ愈
好轉シテ東洋平和ノ確立ヲ期スル決シテ
難事ニ非スト信ス内閣總理大臣並對滿事
務局總裁ノ之ニ對スル所見如何
右及質問候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員中村嘉壽君提出對滿對支政策
ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員中村嘉壽君提出對滿對支政
策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

趣旨ニ於テ全く同感ニテ政府ニ於テモ右
方針ニテ善處シ居レリ又滿洲國ハ王道政
治ヲ以テ建國ノ大本トセル國ナルカ故ニ

德ヲ以テ施政ノ根本方針ト爲スハ當然ノ
コトニシテ人材ノ拔擢ノ如キモ常ニ公平
無私適材ヲ適所ニ置クハ勿論ナリ又日滿
不可分ノ關係ハ曩ニ滿洲國皇帝陛下カ煥
發セラレタル回鑾訓民ノ詔書ニモ明カニ
シテ日滿兩國ハ一德一心ノ國ナルヲ以テ
滿洲國當局ニ於テモ克ク此ノ日滿關係ニ
徹底シタル建國ノ功勞者ヲ重用スルハ當
然ナリト信ス

昭和十二年三月三十日

內閣總理大臣 林 銑十郎
外務大臣 佐藤 尚武

機船底曳網ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十五日

北 吟吉

外三名

機船底曳網ニ關スル質問主意書

積年ニ互リ財界不況ノ結果トシテ農山漁
村ノ疲弊困憊甚大ヲ極メ其ノ慘狀時ニ眼
ヲ蔽フカ如キモノアリ之カ對策ヲ講スル
ニ官民一致大ニ努力シ近來陸上ノ産業ハ
稍々復興ノ曙光ヲ認メツツアリト雖獨リ漁
村ニ於テハ未タ何等ノ生色ヲ見ス其ノ由
テ來ル所ハ實ニ生産漁場ノ荒廢ニ基因ス
ルモノト謂ハサルヘカラス而シテ農村ハ
米ノ豐作ニ依リ山村ハ生産物資ノ人爲的
工作ニ依テ各其ノ窮地ヨリ脱スルコト比
較的容易ナルモ漁村ハ上記ノ諸條件以外

更ニ漁場ノ復興ト云フ特殊事情ニ支配セ
ラルル爲幾多ノ陸上産業ニ比シ更生ニ遲
遅タルモノアルハ眞ニ痛恨ニ堪ヘス
輓近科學的漁法ノ進歩ニ伴ヒ沿岸漁民ハ
亂獲ノ弊ヲ知り酷漁ノ結果ヲ覺リ稚魚ヲ
愛シ幼貝ヲ保護シ各、自省の共同施設ニ依
リテ漸次沿岸漁場ノ復興ヲ計リ更ニ統制
アル組織ノ下ニ生産消費ノ調節其ノ他漁
村更生ノ根本工作トシテ漁業協同組合ノ
設立ニ力メ以テ往時ノ盛況再現ニ懸命ノ
努力ヲ爲シツツアル時ニ際シ此ノ大衆漁
民ノ幸福ヲ無視セル機船底曳網業者ハ永
遠ノ大計ニ何等顧慮スルコトナク常ニ禁
止區域内ニ於テ公然犯行爲ヲ敢テシテ
憚ラス折角漁民カ築カムトスル復興計畫
ヲ平然トシテ日毎ニ破壞シツツアリ斯ノ
如キ弊害ヲ根本的ニ除去スル方法トシテ
農林當局ハ昭和十二年度ニ機船底曳網轉
業整理ノ法案ヲ樹テタリト聞キ沿岸漁民
ハ漸ク多年ノ愁眉ヲ開キ同案ノ議會通過
ノ一日モ早カラムコトヲ熱望シツツアル
時ニ當リ突如トシテ底曳網業者ハ農林
當局ノ發案ニ反對的猛運動ヲ開始シ有ラ
ユル奸策ヲ用ヒテ其ノ野望ヲ達セムト狂
奔シツツアルカ如キハ是レ實ニ社會ノ安
寧秩序ヲ害スルモノニシテ許スヘカラサ
ルモノナリ殊ニ新潟縣ノ機船底曳網業者
ハ窮餘ノ策トシテ北蒲原郡沖合佐渡北東
ヨリ粟生島西南ニ互ル海區ニ限リ其ノ操
業ヲ認メラレタキ旨ノ請願書ヲ呈出シ併
テ野望達成ノ猛運動ヲ爲シツツアルヤニ

仄聞セリ

該海區ハ遠ク信濃川ノ流末ニ當リ常ニ淡
鹹水交流スル天惠の漁場ニシテ附近沿岸
漁民ハ勿論西蒲原、三島郡沿岸漁民ノ延
繩漁業者ニトリテ主要且無限ノ價值アル
漁場ナリ從テ近來小型動力附漁船ノ發達
ヲ見ルヤ益々之ヲ有效ニ利用シテ漁獲ニ從
事シツツアル所ナルニ若シ本漁場ニ機船
底曳網ノ操業ヲ許スカ如キコトアラムカ
其ハ眞ニ寒心スヘキ暴舉ト謂ハサルヲ得
ス政府ハ此ノ際是非共機船底曳網漁業整
理法案ノ通過ヲ圖リ以テ沿岸漁場ヲ復興
シ頻死ノ狀態ニ在ル沿岸漁民ト漁村トヲ
救済スル爲新潟縣沖合ニ於ケル機船底曳
網ノ操業ヲ絕對ニ禁止スヘキモノト思惟
スルカ之ニ對シ政府ハ如何ナル對策ヲ有
スルヤ

右及質問候也

昭和十二年三月三十日

內閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員北吟吉君外三名提出機船底曳
網ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
（別紙）

衆議院議員北吟吉君外三名提出機船底

曳網ニ關スル質問ニ對スル答辯書

今般農林省ニ於テ計畫中ナル機船底曳網
漁業整理案ハ沿岸漁場ヲ荒廢セシメ又ハ
沿岸漁場ノ漁利ヲ壟斷スル等多數ノ中小
漁業者ト利害相容レサルカ如キ機船底曳

網漁業ヲ整理シ沿岸漁業者ニ對シ直接又
ハ間接ニ何等ノ影響ヲ與ヘス漁業資源ノ
維持竝ニ増進ニ關シ支障ナキカ如キ機船
底曳網漁業ハ整理セムトスルモノニ非ス
而シテ新潟縣沖合ニ操業スル機船底曳網
漁業カ前記ノ何レニ該當スルモノナリヤ
ニ付テハ目下慎重調査中ナリ

右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

農林大臣 山崎達之輔

國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問主意
書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十八日

提出者 江藤源九郎

國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問主
意書

一 第六十九回帝國議會ニ於ケル鐵道敷
設法中改正法律案委員會議錄ニ據レハ
赤穂線ニ對スル政府當局ノ言明ニ依リ
赤穂線ハ國有鐵道幹線ヲラシムルカ爲
ニ敷設スルモノナルコトヲ明白ニシタ
ルハ當然ナリ而シテ東京下關間鐵道ノ
日滿連絡ノ重要使命ニ鑑ミレハ赤穂線
ハ輸送能率ノ増進ト時間ノ短縮トヲ主
要眼目トシテ線路建設ヲ爲スヘキモノ
ニシテ赤穂線ヲ以テ地方産業ノ開發ヲ
目的トスル培養線ト同一視スヘカラサ
ルハ言フ要セサル所ナリ故ニ第六十九
回、第七十回帝國議會鐵道敷設法中改

正法律案委員會ニ於テ議員ノ質問ニ對シ前、現兩鐵道大臣ハ「線路ノ選定ハ未定ナリ國有鐵道ノ本義ニ則リ時代ニ適應スル適正ナル線路ヲ決定スヘシ」トノ旨答ヘタリ然ルニ第七十回帝國議會豫算委員分科會ニ於テハ鐵道事務當局カ「事務當局トシテハ最初ヨリ線路ハ決定セリ由來事務當局ノ決定セル案ニ對シテハ責任者(大臣)ニテ彼此云ヒシ例皆無」ナルカ如ク答辯セリ是レ實ニ大臣ト事務當局トノ間ニ於ケル答辯ノ矛盾ニシテ國務大臣ノ議會ニ於ケル言明ハ無責任、無誠意ノ甚シキモノナリト斷定セサルヲ得ス眞ニ一大怪事ナルト共ニ議會政治上ノ重大問題ナリト思惟ス政府ノ所見奈何

二 鐵道事務當局カ議會ニ於テ線路ノ選定ニ付事務當局ノ決定セル案ニ對シ主管大臣カ彼此云ヒシ例ナシト言明セルハ下廻上ノ甚シキモノニシテ而モ赤穂線ノ如キハ昨春ノ選舉運動ニ利用セラレタリトノ批難ヲ受ケ又最近ノ鐵道疑獄ニ因縁アリトノ風評ヲ受ケ居レル所謂曰ク附ノ敷設線ナリ然ルニ此等ノ事件發生當時ヨリ在任シツツアル事務當局カ斯ル上司ヲ無視シ事實ヲ誣ヒ或ハ國家ノ方針ヲ勝手ニ變更スルカ如キ發言ヲ敢テスルハ世間ノ疑惑ヲ深カラシメ官紀ノ紊亂ヲ憂ヘシムルノミナラス現ニ鐵道疑獄事件ノ進行中突如前議會ニ於ケル當局ノ言明ヲ裏切ルカ如キ言

辭ヲ弄スルコトハ其ノ動機ト理由ト必要トニ付テ多大ノ疑問ヲ禁スル能ハス斯ノ如キハ事務當局トシテ不謹慎千萬、奇怪至極ノ言動ト謂ハサルヘカラス司法當局ノ注意ヲ喚起スル必要アリトサヘ思惟セラル此ノ一大怪事ニ對シ政府ハ如何ナル處置ヲ執ラムトスル乎敢テ所見ヲ質ス

三 赤穂線ノ線路ハ直通線ト迂回線トノ二線ヲ豫想セラル而モ本線敷設ノ根本理由ヨリスレハ第六十九回帝國議會ノ鐵道敷設法中改正法律案委員會ニ於テ鐵道當局カラ言明セル如ク「距離ト時間トヲ短縮スル改良線ニシテ併セテ地方産業ノ開發ヲ計ル」モノナルヲ以テ其ノ線路ハ最短距離ヲ直通シテ土地平坦ナル地方ヲ通スル工事容易ナル線路ヲ選定スヘキカ當然ニシテ殊更ニ一小郡都ヲ目標トスルカ爲ニ線路ヲシテ三角形ノ二邊ヲ迂回セシメテ距離ヲ延長シ現在線路ノ急勾配ヲ避クルカ爲ノ新線敷設ニ急「カーブ」線ヲ取入レ且又工事至難ニシテ多額ノ建設費ヲ要スル線路ヲ採リ而モ亦之ヲ直通線ニ比スレハ距離ニ於テ、六分、時間ニ於テ十二分ヲ増大スル迂回線ヲ經由セシムルカ如キ計畫ハ交通政策上將又國防計畫上斷シテ避クヘキモノナリト信ス鐵道並陸海軍當局ノ所見奈何

四 鐵道省當局ノ言明ニ依レハ赤穂線ヲシテ西大寺町ヲ迂回經由セシムレハ直

通線ニ比シ年額二十萬圓ノ增收ナリト云フ思フニ之レ長距離ノ算出スル旅客賃金、貨物運賃ノ増加ヲ見積ルカ爲ニシテ斯ル採算ヲ以テスレハ寧ロ新線ヲ敷設セス長距離ナル現在線ノ運轉ニ依ルコトカ收入最大ナリトノ結論ニ達シ赤穂線敷設理由ノ如キハ全然解消セララル自繩自縛論ニ陥ルヘシ殊ニ右收益計算中ニハ附近各町村產物其ノ他ノ農產物ノ西大寺町集散運賃ヲ見積リ居レトモ該產物ハ西大寺港ヨリ舟運ニ依リ大阪其ノ他ノ各仕向地ニ發送セラレ假令西大寺町經由ノ鐵道ノ敷設ヲ見ルモ舟運ニ比シ鐵道ハ運賃三倍ヲ要スルヲ以テ到底此等果物ヲ鐵道ニ託送セシムルコトハ至難ナリト思惟ス鐵道當局ノ二十萬圓增收計算ノ根據奈何

五 赤穂線ヲシテ西大寺町ニ迂回セシムヘシトハ西大寺町ノ希望ニシテ又直通線ヲラシムヘシトハ地方八箇村ノ希望ナリ而シテ迂回線ノ敷設ヲ見ムカ可シ知、芳野ノ二村ハ單ナル線路通過地トナリ徒ニ田畑ヲ收用サルヘク往年ノ水害善後處置工事ノ爲田畑ノ收用セラレタルト相俟テ全村失業離散ノ悲慘事ヲ現出スルカ故ヲ以テ迂回線敷設ニ極力反對シツツアリ思フニ西大寺町ニ對シテハ現在西大寺軌道ノ運轉ニ依テ十分交通上ノ恩惠ヲ受ケツツアリ然ルニ若シ八箇村ノ利害ヲ全然無視蹂躪シテ西大寺町ノミノ希望ニ副ハムトスルカ如キ

鐵道ノ敷設計畫ハ政治ノ大眼目ニ反スル時代錯誤ノ甚シキモノニ非スヤ政府ノ所見奈何
右及質問候也

昭和十二年三月三十日

內閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員江藤源九郎君提出國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員江藤源九郎君提出國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、赤穂線敷設ニ際シ西大寺町ヲ經由スルヤ否ヤノ問題ニ對シ、前現大臣共ニ線路ノ選定ハ未定ナリ今後適正ナル線路ヲ決定スベシト答ヘタリ、又今議會ニ於テ事務當局ハ「最初ヨリ線路ハ決定セリ、由來事務當局ノ決定セル案ニ對シテハ大臣ニテ彼は云ヒシ例無カル如ク答辯セリ」ト質問書ニアルモ事務當局ノモノハ「議會提出當時ノ線路ハ西大寺町經由トナレルモ實測ニ際シ猶其ノ是非ヲ再檢討ヲナスベシ、而シテ從來大臣ヨリ技術上非ナルコトヲ強ヒラレタルコト無シ」トノ意味ニシテ兩者答辯ノ間ニ矛盾ナシ
二、一項ニ述ベタル如ク兩者ノ答辯ニ矛盾無ク事務當局ガ上司ヲ無視シ事實ヲ

証ヒタルコト無シ

三、赤穂線ハ地方開發ヲ主要目的トシ山陽本線ノ補助線トスルハ從ノ目的ナレバコノ主旨ニ從ヒ目下線路調査中ナリ、尙陸海軍トシテモ本件ニ關シテハ何等異論ナシ

四、西大寺町經由線ハ經由セザルモノニ比シ其ノ勢力範圍内ニ於ケル人口、物資共ニ多ク從テ收入ノ増加ヲ來ス、又後者ハ前者ヨリ多少距離短ク特定資金設定ノ關係上既成線ニ及ボス收入ノ減少ヲ來ス

以上二ツノ理由ニヨリ收入ニ於テ多額ノ差アリ

五、西大寺町經由線ト經由セザル線トニ對スル兩關係地方民ノ希望ヲ考慮ニ入レ目下線路調査中ナリ

右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

陸軍大臣 杉山 元
海軍大臣 米内 光政
鐵道大臣 伍堂 卓雄

尾去澤鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十九日

提出者 川俣 清吉

外一名

尾去澤鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關スル再質問主意書

本員等ガ議ニ二回ニ互リ表記問題ニ關ス

ル質問主意書ヲ提出シタルニ對シ政府當局ハ逐一答辯書ヲ寄セラレ其ノ意ノ在ル所ヲ示サレト共ニ三菱鑛業會社ニ對シ鑛業法違反其ノ他ノ廉ヲ以テ告發サレ又廣ク天下ニ聲明サレル等關係地方民ノ疑惑一掃ニ努メラレツツアルハ本員等ノ諒トスル所ナルモ更ニ其ノ責任ノ所在ヲ糾明シ飽マデ其ノ原因ヲ探求シ再ビ斯ル慘禍ヲ繰返サザルヤウ根本對策ヲ講ゼントスル素志ノ下ニ再度左ノ諸項ニ付政府ノ答辯ヲ煩ハサントスルモノデアアル

一 決潰ノ原因ニ關スル件

本員ハ嚮ニ三菱鑛業株式會社ノ事業成績ト本邦鑛業ノ趨勢トヲ舉ゲテ沈澱池堤防決潰ガ決シテ偶然ノコトニ非ズ其ノ原因ハ

(1) 生産増加ニ對應スヘキ鑛滓堆積處置ニ付テ科學性ヲ有セザル土木工事ガ行ハレ居リタルコト

(2) 鑛山經營ノ資本家の獨善主義ニ在ルコトヲ指摘シ政府ノ所見ヲ訊ネタルニ

(1) ノ原因ヲ肯定シ
各般ノ事情ヨリ判斷スルニ決潰前數回ノ漏水アリタルニ拘ラズ鑛山側ニ於テハ之ヲ重大視セズ其ノ原因糾明不十分ニシテ彌縫的ナル應急處置ヲ講ジタルニ止リ而モ本鑛泥堆積方法ノ本旨ニ悖リ送泥シタルコト等ヲ大體ニ於テ主要ナル原因ト認ムベク而シテ前記漏水ヲ生ジタルハ堤防ノ百尺地竝ノ部分ニ於

テ弱點ヲ生ジ易キ工事ヲ爲シタリト思ハルルコト築堤材料ニ不均一ナル點アリタルコト及排水管ニ故障ヲ生ジ堤防内ニ軟泥部分ヲ生ジタリト思料セラレルコト等ノ事實ニ因ルモノナルベクト答ヘ更ニ

此等ノ事實ガ綜合シテ今回ノ災害ヲ發生スルニ至リタルモノト認ム之ヲ要スルニ本件災害ハ鑛業權者ニ於テ操業ニ對スル注意ヲ缺キタルニ因ルモノト謂フヘシ

トノ結論ヲ下シテ居ルノデアアル

而シテ本員等ノ舉ゲタル

(2) ノ鑛山ノ資本家の獨善經營ニ決潰ノ原因ヲ有スルモノニ非ズヤトノ質問ニ對シテハ何等ノ答辯ガナカツタノデアアル

願フニ政府ガ決潰ノ重大ナル原因トシテ舉ゲタル幾ツカノ事實ハ之ヲ要約スレバ利潤獲得ヲ至上命令トスル資本主義的生産方法ニ當然且必然的ニ隨伴スル事項デアツテ資本カラ最大ノ利潤ヲ生マシメントスレバ或ハ勞働者ノ生命、鑛石排泄物ノ處置等ニ付「注意ノ周到」ヲ缺クモ亦已ムヲ得ナイト謂フ結論ニナルノデアアル故ニ本員等ハ政府答辯書ヲ通シ政府ノ意ノ在ル所ヲ推察スルニ要約次ノヤウニナルノデハナイカト思フノデアアル即チ

「鑛業權者ニ於テ操業ニ對スル注意ノ周到」ヲ缺キタル」事例トシテ政府ノ舉ゲタル幾ツカノ事實ハ資本主義的生産方法ノ本質カラ生レタルモノデアリ而シテ鑛業

權者ノ操業ニ對スル注意不周到ハ其ノ本質ヨリ來ル當然ノ結果デアルト謂フ事ヲ暗ニ承認サレタルモノデアリ本員等ノ「鑛山ノ資本家の經營」ニ遠因ヲ有ストノ說ニ賛成シタルモノデアアルト

若シ然リトセバ鑛山ニ於ケル災害防止對策ニ關シ更ニ根本塞源の對策ヲ樹ツル必要ガアルノデハナイカ即チ例ヘバ鑛山國營ノ如キ具體策ヲ樹ツベキデハナイカ此ノ點ニ關スル政府ノ所見ヲ明ニサレタイ

二 施業案違反ニ關スル件

鑛業法第七十一條同第七十二條ニ基キ廣汎ナル警察事務ヲ委ネラレテ居ル商工大臣竝鑛山監督局長ノ監督不行届ニ付テ本員等ガ質問シタルニ對シ政府ハ

「中澤堆積場扞止堤防ニ付テハ其ノ設計支障ナキモノトシテ仙臺鑛山監督局ニ於テ認可シ爾後監督シ來リタルモノナリ」(第一質問主意書答辯)

ト答ヘ本員等ガ更ニ第二質問主意書ニ於

イ 花輪警察署、秋田縣警察部ヲ通シ漏水ノ都度政府當局ハ其ノ報告ヲ受ケタルカ

ロ 仙臺鑛山監督局ハ昨年局員ヲ尾去澤鑛山ニ派遣シテキルガ右復命書ヲ提示セヨ

ハ 堤防增高ノ如キ施業案變更ニ於テ三菱鑛業株式會社ハ其ノ都度施業案ヲ提出シタルカ
ニ 堰堤建設増設ノ年月日ト之ガ工

事監督ニ付當局ノ執リタル處置如何等ヲ學ゲテ追及シタルニ政府當局ハ

警察署或ハ警察部ヲ通シテ報告ヲ

受ケタルコトナク漏水アリタル事實ハ災害後ノ調査ニ依リ初メテ知り得タル

昭和十一年九月排水管ニ故障アリタル事實ニ付テモ別ニ報告ヲ受ケズ同年十月仙臺鑛山監督局ガ局員ヲ出張セシメタルハ金鑛買鑛事情及坑内狀況調査ノ爲デアル

ハ三菱鑛業株式會社ハ當初中澤鑛山堆積場ニ關シ所定ノ施業案ヲ差出シタルモ之ガ變更ニ際シテハ其ノ手續ヲ爲サザリシモノナリ

ニ中澤堆積場并止堤防ノ築堤工事ハ昭和六年四月著手シ爾後數回增高シ同年九月之ヲ完成セリ

鑛業警察ノ目的ヲ以テ昭和七年、同年八月及同年十月本鑛山ニ出張ノ際堤防ニ付テモ實地調査ヲ爲シタル

右實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居リタル

ト答ヘテ居ル

本員等ガ本年二月二十一日尾去澤鑛山ニ赴キ同鑛山當局ト會見シタル際鑛山當局ハ

中澤堰堤ハ昭和六年築造シ爾後四五回嵩上ガヲシテ居ル

ト口頭ヲ以テ應ヘ其ノ後文書ヲ以テ本員等ニ報告シタル所ニ依レバ

中澤堰堤施業案

第一次 昭和六年四月五日附提出

同年九月十二日附受理

第二次 昭和八年二月六日附提出

同年三月二十二日附受理

ト前後二回ニ互ツテ施業案ハ提出サレテ居ルコトニナツテ居ル此ノ鑛山側文書報告ヲ信用シ得ルモノト假定シテ之ト先ノ政府答辯書「三菱鑛業株式會社ハ當初中澤鑛山堆積場ニ關シ所定ノ施業案ヲ差出シタルモ之ガ變更ニ際シテハ其ノ手續ヲ爲サザリシモノナリ」トヲ對照スレハ少クトモ施業案ニ依ラザル增高工事ハ昭和八年三月以降デアルカノヤウデアル然ルニ「昭和十年鑛業警察ノ目的ヲ以テ本鑛山ニ出張ノ際堤防ニ付テモ實地調査ヲ爲シ」右實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居リタルモノ（政府答辯書記載要旨）デアルト政府ハ答ヘテ居ル「昭和六年四月著手シ爾後數回增高シ同年九月之ヲ完成シタル中澤堆積場堤防ハ少クトモ昭和八年三月以後ハ施業案「變更ニ際シテ其ノ手續ヲ爲サザリシ」モノデアルニ「昭和十年堤防實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居タルモノ」デアルトノ政府答辯ハ本員等ヲシテ了解セシメナイモノガアル

以上政府並社會當局ノ談ヲ綜合シテ本員等ハ下記各項ニ關シ再ビ政府ノ答辯ヲ煩ハサザルヲ得ナイ

1 政府ハ尾去澤鑛山ガ三菱鑛業株式會社ノ經營タルコトニ過信シ科學的究明ヲ怠ツテ輕率ニ施業案ヲ受理シタルモノニ非ザルヤ

2 從テ選鑛施業案夫レ自體ニ缺陷ヲ藏シタルモノニ非ズヤ

3 若シ中澤并止堤防ガ豐富ナル科學的檢討ヲ經タル後ニ立案サレ更ニ此ノ認可サレタル施業案ニ依リ築造サレタルモノナリトセバ之ニ背反スル施業ヲ長期ニ互リ行ヒタル事態ハ如何ヤウニ説明シ得ルモノナリヤ

而シテ其ノ説明ハ單ナル鑛業法規違反ト了解シ得ベキモノナリヤ否ヤ

4 施業案ノ變更ノ手續ヲ爲サズシテ長期ニ互リ操業ヲ爲シタル鑛業權者ハ本件以外ニ類例アリヤ否ヤアリタリトセバ之ニ對シテ執リタル所斷如何

5 實地調査ノ際ハ施業案通り操業ヲ爲シツツアリタルモノガ調査後ニ於テ無居ノ儘變更シ操業スルハ明ニ鑛業法違反行爲ヲ敢テ爲シタルモノト認ムベキモノト思料スルガ所見如何之ト所見ヲ異ニスル場合ハ其ノ理由ヲ明示サレタシ

6 政府當局モ既ニ施業法違反ヲ認メテ居ルノデアアルガ中澤并止堤防築造ガ施業案ニ背反スルコト及無届デ工事サレタル年月日ヲ明示サレタシ

三 政府ノ監督ニ關スル件

人命、操業中斷等ニ影響ナキ漏水、排水管故障ノ如キハ鑛業警察規則第七十三條

ノ除外例デアリ其ノ結果「其ノ概況ヲ鑛山監督局長ニ急報」スベキ必要ハナイトシテモ此ノ漏水、排水管故障ハ數箇月後ニハ一瞬間ニ三百六十餘名ノ生靈ヲ奪フ災禍ノ原因デアリ又其ノ前兆デアツタ又尾去澤鑛山當局ガ二月二十一日本員等ニ應ヘタル所ニ依レバ

漏水

第一次 昭和十一年九月二十五日

第二次 同年十月三十日

排水管故障

同 年九月十一日

デ此等ハ鑛業警察規則ニ依レバ「急報」スベキ義務ハナイコトニハナツテ居ルガ同規則第十四條第三項ニ依テ當然保安日誌ニ記入シナケレバナナイ事項デアルソレ故三菱鑛業株式會社ガ忠實ニ保安日誌ヲ記入シテ居タルスレバ昭和十年鑛業警察ノ目的ヲ以テ同鑛山ニ當局ガ出張シタル際又ハ昭和十一年初秋漏水、排水管故障ノ事故起リタル最中ニ「坑内狀況調査ノ爲」局員ガ派遣サレタル際ニハ當然保安日誌ヲ繕クベク保安日誌ヲ一見スレバ少クトモ漏水、排水管故障事故ヲ知り得ル機會ガアツタト思料スル然ルニ其ノ事ノナカツタ旨ヲ政府ハ答ヘテ居ル茲ニ於テ

1 三菱鑛業株式會社ハ保安日誌ニ前記事項ヲ記載シ居リタルヤ否ヤノ疑問ガ起ラザルヲ得ナイシ又

2 「年四五回監督ニ出張スル局員」（尾

去澤鑛山小林一正氏ノ言ハ保安日誌ヲ點檢シタルヤ否ヤ

ノ答辯ヲ要求スル必要モ亦起ルノデアル本年二月二十一日本員等ノ質問ニ對シ尾去澤鑛山小林一正氏ハ

鑛山監督局カラハ年四五回ノ出張監督ガアリマシタガ災害前マデハ書面ニ依ル警告ハ一度モ受ケタ事ハアリマセヌデシタ只年ハ忘レマシタガ決潰シタ中ノ澤「ダム」ノ直下ニ在ッテ共和館ノ事ニ付テ多數ノ者ヲ寄セル建物ヲアソコニ置ク事ハドウカト思フト口頭デ注意サレタ事ガアリマシタノデ會社モ地理ノ不便ナ事ヲ考慮シテ尾去澤町役場ノ傍ノ現在所迄移シタ事ガアリマス

ト應ヘテ居ル
第一質問主意書ニ對スル政府答辯書ニハ第一回決潰後仙臺鑛山監督局長ハ鑛業法第七十二條第二項ニ基キ

鑛業ノ操業開始ノ際ニハ鑛山監督局ニ豫メ申出ヅルコト
ヲ鑛山當局ニ警告シテアルト言フテ居ルガ尾去澤鑛山ハ第二回決潰ノ直後タル昭和十一年十二月二十八日操業ヲ開始シ本年年初メ一旦中止シタル後一月十九日カラ再度操業ヲ開始シテ居ル茲ニ本員等ハ次ノ疑問ヲ持ツ即チ

3 昨年十二月二十八日ノ操業開始ハ鑛業法第七十二條第二項ニ基キ仙臺鑛山監督局ニ豫メ申出デタル後ニ爲シタルモノナリヤ否ヤ

尙申出後ナリトスルナラバ何故本年一月八日頃操業中止ノ注意ヲ下シ一月十八日迄休業セシメタルモノナリヤ

中ノ澤「ダム」決潰ハ更ニ尾去澤鑛山獅子澤沈澱池ノ決潰ヲスラ考慮セシメルニ至リ仙臺鑛山監督局ハ第二回ノ中澤堰堤決潰後獅子澤「ダム」下ノ家屋ヲ移轉ヲ尾去澤鑛山當局ニ警告シタトノ事デアルガ此ノ移轉ハ二月末現在ニ於テモ實施サレテ居ナイ斯ル事情カラ茲ニ

4 右獅子澤「ダム」下ノ家屋移轉警告ガ發セラレタ日時並其ノ實行遲延ニ對スル政府當局ノ處置如何
ノ點ニ付詳細ニ政府ノ答辯ヲ要求スルモノデアル

四 責任者處分ニ關スル件

本員等ハ第一質問主意書ニ於テ中ノ澤堰堤ノ不正工事ノ事實ヲ舉示シ大略

一 責任者ハ三菱鑛業株式會社代表社員タルベシ
二 刑事上ノ責任ヲ負ハスベシ
ト質問シタルニ對シ

刑事責任ノ有無、範圍等ハ未ダ決定シ難シ尙仙臺鑛山監督局ニ於テハ鑛業權者及技術管理者ニ鑛業法違反ノ廉アルモノト認メ所轄檢事局ニ告發ヲ爲シタリト答ヘテ居ル刑事責任ノ有無範圍等未ダ決定シ難シトアルモ本員等ガ花輪警察署並尾去澤鑛山當局カラ提示サレタル第一回決潰ニ因ル犠牲死亡者數ハ左表ノ示ス如クデアル

第一 慘事死亡者部落字別數

姓名	人口數	死者	行方不明者
中澤	五二	男 六 女 三	男 四 女 三
笹小屋	五三	男 三 女 三	男 四 女 八
瓜畑	五八	男 〇 女 三	男 二 女 二
春木澤	一九	男 三 女 三	男 三 女 三
新山	二二	男 二 女 四	男 三 女 三
新堀	三九	男 三 女 七	男 二 女 八
蟹澤	五七	男 七 女 一	男 一 女 一
西洞	四	男 一 女 一	男 一 女 一
其他	一四	男 八 女 二	男 一 女 一

(註) 本表ハ二月二十一日花輪警察署長ガ本員等ニ提示シタル第一回決潰慘事ニ因ル犠牲者數

第二 尾去澤鑛山當局提示ノモノ

職員及勞務者及其家族	其他	計
中澤方面	三	三
笹小屋方面	六	二九
瓜畑方面	〇	一〇二
新堀蟹澤方面	〇	一〇二
計	七	一四三

(尾去澤鑛山小林一正氏送付)

花輪警察署提示ノ死亡者、行方不明者ヲ字別人口數ニ對比シテ見レバ決潰堰堤直下ノ中ノ澤部落ハ豫想外ニ犠牲率少ク(高地ニアル瓜畑部落ヲ除ケバ)決潰「ダム」ヲ遠ザカルニ隨テ犠牲率ハ増加シ二割カラ三割ヲ超ユルニ至ツテキル而シテ尾去澤鑛山當局ガ語ル所ニ依レバ「十一

月二十日午前一時頃眞暗闇ノ堰堤ニ沿ウテ中澤「ダム」下ノ鑛夫住宅ニ急イデキタ一鑛夫ハ水ノ音デ漏水ト堰堤決潰ノ危險ヲ豫知シ鑛山事務所ニ急報シタル結果鑛山當局ガ該箇所ニ出向キテ應急措置ニ掛カリシハ午前一時半頃ニシテ萬策盡キテ決潰シタルハ午後三時過ぎデアツタト謂フノデアル即チ右鑛夫ガ危險ヲ豫知シテ後破局ニ至ル迄ノ時間ハ約二時間以上モアツタノデアル

第一回決潰後仙臺鑛山監督局長ハ其ノ警告書ニ於テ「警報機關ノ完備」ヲ警告シテキルノデアルガ縱シ「完備シタル警報機關」ヲ持タザルトスルモ第一回ノ決潰ハ時ハ靜寂ナ暗夜デアリ而モ大破局迄ハ二時間有餘ノ時間ガアツタノデアル完備シタル警報機關ヨリハ應急ノ警報即チ半鐘又ハ「サイレン」ニ依ル等ノ處置ガ必要ダツタノデアル此ノ點ニ於テ鑛山當局ノ重大ナル過失ヲ果シテ默過出來ヤウカ其ノ人口ノ最大多數ナル中ノ澤部落ガ却テ犠牲者ノ最少ナリシ事ヲ思ヘバ思ヒ半ニ過グルモノガアルノデアル

然ルニ當局ガ斯ル鑛山當局ノ過失ニ對シ刑法第二百一十一條ノ適用ヲ躊躇スルノハ何故ナルヤ尾去澤慘事ガ業務上ノ過失致死罪ヲ構成セザル理由何處ニアリヤ吾人ハ其ノ理由ヲ解スルニ苦シムノデアル茲ニ於テ本員等ハ次ノ諸點ニ付政府ノ明答ヲ要求スルモノデアル
1 政府當局ガ右事件ニ付刑法第二百十

一條ノ犯罪トシテ起訴セザル理由如何

2 鑛業法第十七條ニ於テ鑛業權一般ノ處分能力ニ制限ヲ加ヘタルハ結局鑛業權者ニ民事、刑事ノ責任ヲ負ハシムル趣旨ニ非ズヤ

次ニ鑛山ノ「保安日誌」ノ記載ハ鑛山警察規則第十四條ニ基ク鑛山當局ノ義務デアリ施業案ノ提出ハ鑛業法施行細則第四十四條並様式第十九號ニ關スルモノデアアル右保安日誌ガ成規ノ如ク記載セラレアリタリトスレバ漏水、排水管故障ハ急報ナクトモ昨年ノ秋政府當局ガ注意ヲ怠ラザル限り容易ニ發見シ得ラレタルモノデアアル又鑛山當局ガ擅ニ施業案ヲ變更シ又ハ施業案ヲ提出セズシテ數回ニ互リ增高工事ヲ行ヒ(昭和十一年九月完成)タルニ其ノ間政府當局ハ「實地調査」ヲ三度モ爲セシ故右事實ガ鑛業法違反ナルコトヲ發見シ得タル筈デアアル

然ルニモ拘ラズ政府當局ハ尙災禍後ニ至ル迄鑛業法第七十二條ニ依ル處置ヲ執ラズシテ一鑛山監督局長ヲ懲戒處分ニ付シタルノミデアアル茲ニ於テカ吾人ハ連年監督怠慢ノ責任ヲ有スル歴代商工大臣並仙臺鑛山監督局長ノ責任ヲ問ハントシ併セテ今日ニ至ル迄尙之ヲ爲サザル理由如何ヲ質サントスルモノデアアル

五 將來ノ災害防止ノ件

本員等ガ嚮ニ軍需景氣ノ進行ニ伴フ工場鑛山ニ於ケル災害死傷者急増ノ事實ヲ指摘シ且從業労働者ノ災害豫感ニ依リ災害

ヲ未然ニ防止セントシテ組織的ナル災害防止勞資共同委員會ノ設置ヲ提唱シタルニ對シ政府ハ其ノ答辯ニ於テ「災害防止ガ労働者ノ協力ニ俟ツ所大ナルコトハ言ヲ要セズ」ト答ヘナガラ「之ガ爲ニハ各工場鑛山ニ在リテハ安全委員會其ノ他ヲ組織シ勞資相協調シテ災害防止ニ努メ相當ノ成績ヲ擧ゲツツアリ」ト恰モ之ガ爲災

害ニ基ク労働者、鑛夫ノ死傷數ガ増加シ居ラザルガ如キ「顧ミテ他ヲ云フ」態度ヲ取ツテキルノデアアル此ノ答辯ガ如何ニ欺瞞性ヲ持チ居ルカハ政府自身ノ統計表ガ明示シテキル即チ内務大臣ノ下ニアル所ノ社會局、商工大臣ノ率キル所ノ鑛山局ガ其ノ名ニ於テ社會ニ公表セル累年「本邦鑛業ノ趨勢」「工場監督年報」ヲ一瞥セバ瞭デアアル然ルニ政府ハ上掲ノ如キ答辯ニ次イデ「右(組織)ハ極メテ有效適切ナルモノトシテ極力獎勵シ居ル所ナルガ將來ニ於テモ一層獎勵ニ努メルコト致シ度シ」ト述べ其ガ組織ヲ労働者、資本家ノ善意ニ俟ツテ獎勵セバ足ルカノ如キ言葉ヲ用ヒテ居ルノデアアル

以上ハ第一質問書ニ於テ尾去澤鑛山從業員ノ災害豫感ニ付十分詳述シ尙法的強制力ヲ持ツ組織ヲ通ジテ豫防的ノ工作ヲ爲サザリシ故ニ災害ヲ破局ニ陥ラシメタル事ヲ述ベタルニ對スル政府ノ答辯デアアル本員等ハ斯ル答辯ニ痛憤ヲ感ズルノデアアル斯クテ本員等ハ次ノ如ク質疑ヲ提出シ以テ政府當局ノ誠意アル答辯ヲ求メントスル

ノデアアル即チ政府ハ災害防止ノ爲各工場、鑛山ニ勞資協同委員會ヲ組織セシムル法律ヲ制定スル必要ヲ認メサルヤ又之ヲ制定スル意思ヲ有セザルヤ

六 鑛業權取消ニ關スル件

本員等ハ第二質問主意書ニ於テ政府發表ノ決潰原因ヲ檢討シタル後政府ハ施業案ニ悖ル數箇ノ決潰原因ヲ舉示シ鑛業法第四十四條違反トシテ同法第九十七條ヲ適用シ責任者ニ對シ告發ノ處置ニ出デタルモ更ニ第四十條ノ規定ニ依リ三菱鑛業株式會社ニ對シ尾去澤鑛山ノ鑛業權取消ノ處置ニ出ヅルヲ適當ト思料スルガ如何

トノ質問ヲ發シタルノデアアル之ニ對シ政府鑛業法第四十條ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取消ヲ爲ス意思ナシ

ト答ヘタルデアアル顧ルニ明治四十四年、某鑛山ハ鑛區稅ヲ納付セザル爲稅務署ガ滯納處分トシテ適法ニ該鑛業權ノ公賣ヲ執行シタルニ結局缺損ニ歸シタル故ヲ以テ鑛業法第四十一條ニ基キ鑛業權ノ取消ヲ行ツタノデアアル而シテ行政裁判所モ亦之ヲ正當ナルモノト宣告シタルノデアアル鑛業權者ニ課セラレタル二大義務(納稅ノ義務、施業案提出同履行ノ義務)ノ一タル鑛區稅ノ未納ノ爲ニ既ニ鑛業權ガ取消サレタル事實ガ存スルノデアアル果シテ然ラバ今回ノ尾去澤鑛山

慘事ハ三菱鑛業株式會社ガ公然鑛業法第四十條違反ヲ敢行シ「施業案ニ依ラズシテ採掘シ來リタル」爲遂ニ三百六十餘名ノ生命ヲ奪ヒ未會有ノ慘事ヲ惹起シタルモノナレバ當然之ヲ取消スベキニ拘ラズ主務大臣ハ尙且「鑛業權ヲ取消ス意思ナシ」ト明言スルノデアアラウカ帝國議會ノ協贊ヲ經 天皇陛下ノ御命令ニ依リ公布セラレ儼乎トシテ存スル鑛業法ヲ主務大臣ハ尙默殺シ去ラントスルノデアアラウカ

茲ニ於テ本員等ハ次ノ諸點ニ付政府當局ノ明解ナル答辯ヲ煩ハシタイノデアアル即チ「採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非ザレバ採掘ヲ爲スコトヲ得ズ」(鑛業法第四十四條第二項)トノ規定ニ違反シタル結果遂ニ大慘事ヲ惹起シタル本件ニ對シ「施業案ニ依ラズシテ採掘ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得」トノ同法第四十條ヲ適用セザル理由如何而シテ監督局ノ監督ヲ輕視シ長期ニ互リ施業案違背行爲ヲ繼續シ大慘禍ヲ招キタルハ鑛業法第四十四條ノ重大義務違背ニ非ズト認定スルヤ

七 鑛山監督局官制改正ノ件本員等ガ第一質問主意書ニ於テ中ノ澤「ダム」堰堤ノ建設ガ土木工學上ノ「イロハ」ヲサヘ無視シタルモノナル事ヲ例示シタルニ對シ政府ハ中ノ澤堆積場扞止堰防ニ付テハ其ノ設計支障ナキモノトシテ

仙臺鑛山監督局ニ於テ認メ爾後監督シ來

リタルヲ……堤防百尺地竝ノ部分ニ於テ

弱點ヲ生ジ易キ工事ヲ爲シタリト思ハル

ルコト、築堤材料ニ不均一ナル點アリタ

ルコト及排水管ニ故障ヲ生ジ堤防内ニ軟

泥部分ヲ生ジタルコト等ノ内容ヲ以テ本

員等ノ質問ニ肯定的答辯ヲ與ヘタノデア

ル

此ノ事タルヤ假令政府當局ガ善意ノ監督

ヲ爲シタリトスルモ土木工學ニ對スル甚

シキ認識不足ガ遂ニ上述ノ如キ災害ヲ惹

起スル一原因デアツタト謂ヘネバナラス

本員等ガ今鑛山監督局官制ヲ見ルニ此ノ

官制ニモ亦土木工學ノ知識ノ缺如ニ基ク

規定ノ存在スルヲ見ルノデアル此ノ官制

ヲ此ノ儘ニ放置センカ再ビ上記ノ如キ災

害ノ發生ナキヲ期シ難イ不完全ナル官制

ノ修正増補ヲ爲シ以テ災害豫防ノ一方法

トスル必要ヲ認ムルノデアル從テ本員等

ハ政府當局ガ進ンデ右官制ノ改正ノ舉ニ

出デラレンコトヲ促シテ止マヌノデアル

更ニ又本員等ハ右官制ノ改正ニ際シテハ

鑛山ニ於ケル勞働行政ヲ鑛山監督局長ノ

監督下ニ置イテハ勞働行政ヲシテ内務省

社會局ト商工省鑛山監督局トノ支配ヲ受

ケ統一アル監督ヲ爲シ得ズ爲ニ幾多ノ不

便ヲ生ズルヲ以テ之亦併セテ改正サレン

コトヲ望ムト同時ニ此等官制改正ノ意思

アリヤ否ヤ問ハントスルモノデアル

右及質問候也

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員川俣清音君外一名提出尾去澤

鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關スル

再質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員川俣清音君外一名提出尾去

澤鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ關

スル再質問ニ對スル答辯書

一 決潰ノ原因ニ關スル件

鑛山ニ於ケル災害防止ニ關シテハ常ニ

留意シ居ル處ナルガ今後更ニ之ガ徹底

ヲ期セントス尙明年度追加豫算ニ鑛山

災害防止ニ關スル經費ヲ計上シテ監督

機構ノ擴充ヲ圖ルコトトシタルガ鑛業

法規ノ改正ニ當リテモ鑛業警察事務ニ

付十分攻究スルコトト致度

二 施業案違反ニ關スル件

尾去澤鑛山施業案ニ付テハ中澤杆止堤

防第一次百四十尺ノ築造ニ付昭和六年

四月五日附提出、第二次六十尺ノ築造

ニ付昭和八年二月六日附提出アリタル

モノニシテ右施業案ニ付テハ十分之ヲ

檢討シ支障ナキモノトシテ受理シタル

モノナリ而シテ施業中鑛業法ニ違反セ

ル點ハ同鑛山鑛滓堆積方法ノ本旨ニ悖

リ送泥シタルコトニ關スルモノニシ

テ右ハ長期ニ互リタルモノニ非ズ尙實

地調査ノ際ニハ施業案通り操業ヲ爲シ

ツ、アリタルモノナリ

三 政府ノ監督ニ關スル件

漏水及排水管故障後仙臺鑛山監督局職

員ガ出張シタルハ第二質問ニ對スル答

辯書中ニ記載セル通金鑛買鑛事情及坑

内狀況調査ヲ目的トスルモノニシテ坑

外保安日誌ヲ點檢セザリキ又昨年十二

月二十八日ノ操業開始ハ鑛山監督局ト

鑛山トノ間ニ行違ノ廉アリテ行ハレタ

ルモノナリ尙杆止堤防ト人家ノ關係ニ

付テハ十分留意シテ居ル所ナルモ獅子

澤杆止堤防下ノ家屋移轉ニ關シ特ニ警

告ヲ發シタル事實ナシ

四 責任者處分ニ關スル件

本件ハ所轄檢事局ニ於テ未ダ捜査中ニ

シテ其ノ完了ヲ俟ツニ非ザレバ起訴不

起訴何レトモ決シ難シ又仙臺鑛山監督

局長ニ對シテハ曩ニ十分戒飭ヲ爲シ將

來ニ對シ嚴重注意スル様訓告ヲ發シタ

ルヲ以テ右處分ヲ以テ妥當ナルモノト

五 將來ノ災害防止ニ關スル件

工場、鑛山ニ勞資協同組織ニ依ル安全

委員會ヲ設ケテ災害防止ノ方法ヲ講ズ

ルコトハ極メテ有效適切ナルヲ以テ從

來極力獎勵セル所ナルモ法規ヲ以テ一

様ニ之ガ設置ヲ強制スルコトニ付テハ

目下研究中ナリ

六 鑛業權取消ニ關スル件

三菱鑛業株式會社ニ對シ鑛業法第四十

四條ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取消ヲ爲ス

ノ要ナキモノト認ム

七 鑛山監督局官制改正ノ件

鑛山監督局官制等ノ改正ニ付テハ鑛業

法規ノ一般ノ改正ト關聯シテ攻究スル

コトト致度

右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

商工大臣 伍堂 卓雄

內務大臣 河原田稼吉

司法大臣 鹽野 季彦

帝國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引

ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十九日

提出者 服部米次郎

外五名

帝國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割

引ニ關スル質問主意書

帝國在郷軍人會ノ目的ハ 聖旨ヲ奉體シ

軍人精神ノ鍛鍊ト軍事能力ノ増進トヲ主

眼トシ會員ハ一致協力此ノ目的ヲ達セム

カ爲致々トシテ奉公ノ實ヲ學ケツツアル

モノニシテ或ハ生業ヲ抛テ或ハ私財ヲ投

シテ本會事業ノ實施ニ努メ全ク自己ノ利

害得失ヲ顧ミルコトナク一意國家ニ奉仕

セムトスルモノニシテ其ノ純真ナル精神

ヨリ發スル功績ハ朝野ノ均シク認メテ多

トスル所ナリ然ルニ從來會員ノ此ノ多

大ナル犠牲ニ對シテ國家ヨリ報イラルル

所極メテ薄ク本會ノ甚々遺憾トスル所ナ

リ殊ニ本會會員會務旅行ノ際ノ如キハ各人

ニ頗ル多額ノ負擔ヲ課スルノ實情ニアル

爲屢情ヲ具シ其ノ割引ヲ請願セシモ私的

團體タルノ故ヲ以テ容レラルル所トナラ

ス以テ今日ニ至レリ然ルニ昨年十一月三

日優渥ナル勅語ヲ賜ハリ公的ノ團體ト

シテ勅令ノ公布ヲ見ルニ至リシヲ以テ當

局トシテハ從來ノ請願ニ付テ斷然見直ス

ヘキハ當然ナリト信ス

政府ハ帝國在郷軍人會ノ目的ニ鑑ミ同會

員會務ノ爲旅行スルトキハ國有鐵道ノ運

賃ヲ五割低減シ又官公衙ノ主催スル會合等

ニ團體トシテ參列スル場合ハ國有鐵道旅

客及荷物運送規則第八十七條ノ特別團體

トシテ取扱ヒ以テ其ノ目的達成ヲ助成スル

ノ意思ナキヤ政府ノ明快ナル答辯ヲ求ム

右及質問候也

昭和十二年三月三十日

內閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員服部米次郎君外五名提出帝國

在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ關ス

ル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員服部米次郎君外五名提出帝

國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ

關スル質問ニ對スル答辯書

本件ニ關シテハ從來ノ經緯モアリ又軍部

關係ノ各種割引トノ關係アルヲ以テ之等

ト併セ十分研究スベシ

右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

鐵道大臣 伍堂 卓雄

度量衡法改正ニ關シ調査會ノ審議ニ關

スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年三月十九日

提出者 東 武

外四名

度量衡法改正ニ關シ調査會ノ審議ニ

關スル質問主意書

現在ノ度量衡法ハ我カ國情ニ即セサルヲ以

テ本院ハ曩ニ第六十五回及第六十七回議

會ニ於テ二回マテ改正法律案ヲ通過シ又

第六十九回議會ニ於テハ度量衡法改正ニ

關シ調査會審議速進ニ關スル建議ヲ爲シ

タリ然ルニ其ノ後同調査會ノ審議ハ遲々

トシテ進マス國家並國民ノ爲洵ニ遺憾ニ

堪ヘス政府ハ之ニ關シ如何ニ考慮セラル

ルヤ又從來ノ審議經過如何

右及質問候也

昭和十二年三月三十日

內閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員東武君外四名提出度量衡法改

正ニ關シ調査會ノ審議ニ關スル質問ニ對

シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員東武君外四名提出度量衡法

改正ニ關シ調査會ノ審議ニ關スル質問

ニ對スル答辯書

度量衡制度調査會ハ其ノ開設以來我國ノ

度量衡制度及其ノ運用ニ付審議ヲ行ヒ總

會ヲ開クコト四回、特別委員會ノ審議ヲ

行フコト三回ニ互リ、更ニ審議ヲ促進ス

ル爲小委員會ヲ設ケ目下折角審議中ナリ

其ノ審議事項ハ極メテ重要ナル問題ナル

ヲ以テ特ニ慎重ナル審議ヲ行フ要アルモ

政府ニ於テハ銳意其ノ審議ノ進捗ヲ圖ル

コトト致度

右及答辯候也

昭和十二年三月三十日

商工大臣 伍堂 卓雄

一昨二十九日貴族院ヨリ回付アリタル政府

提出案左ノ如シ

議院法中改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

農地法案ニ對スル修正案

提出者 大石 大君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ

如シ

南洋委任統治諸島及比律賓居住ノ日本人

間ニ於ケル社會問題ニ關スル質問主意書

提出者 川俣 清音君

內鮮融和ニ關スル質問主意書

提出者 淺沼稻次郎君

一昨二十九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係

ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨ

昭和十二年度歲入歲出總豫算案並昭和十

二年度各特別會計歲入歲出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲ス

ヲ要スル件

〔第一號〕昭和十二年度歲入歲出總豫算追

加案

〔特第一號〕昭和十二年度各特別會計歲入

歲出豫算追加案

〔追第一號〕豫算外國庫ノ負擔トナルベキ

契約ヲ爲スヲ要スル件

昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツ

ル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第十二號中改正法律案

日本銀行條例中改正法律案

日本銀行參與會法廢止法律案

東京農業教育專門學校創設ニ伴フ帝國大

學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關

涉ニ關スル法律案

帝國ノ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及

南滿洲鐵道附屬地行政權ノ調整乃至移讓

ニ伴ヒ退官退職シタル者等ニ交付スル公

債發行ニ關スル法律案

小運送業法案

日本通運株式會社法案

一昨二十九日委員長及理事互選ノ結果左ノ

如シ

建築士法案〔小西和君外七名提出〕委員

理事 委員長 川橋豐治郎君

服部 英明君 古藤增治郎君

南條 德男君 勝又 春一君

司法書士法中改正法律案(立川平君提出)
外一件委員

委員長 小林 鎭君

理事

角 源泉君 立川 平君

一昨二十九日特別委員理事補關選舉ノ結果
左ノ如シ

船員法改正法律案(政府提出)委員

理事 山枡 儀重君(理事池田清秋君
今二十九日委員辭任ニ付其ノ

補關)

一昨二十九日議長ニ於テ選定シタル委員左
ノ如シ

昭和十年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ
求ムル件)外十件委員

野田文一郎君 山枡 儀重君

清水留三郎君 日比野民平君

坂東幸太郎君 佐藤 正君

津原 武君 小山倉之助君

船田 中君 大口 喜六君

牧野 良三君 名川 侃市君

門田 新松君 小高長三郎君

西田 銳吉君 岸田 正記君

川村保太郎君 椎尾 辨匡君

一昨二十九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ
如シ

船員法改正法律案(政府提出)委員

辭任池田 清秋君 補關山枡 儀重君

辭任高野 喜六君 補關山本 厚三君

輸出補償法中改正法律案(政府提出)委員

辭任永山 忠則君 補關綾川 武治君

辭任高良 宗七君 補關古河和一郎君
關稅定率法中改正法律案(政府提出)外四
件委員

辭任川橋豐治郎君 補關森下 國雄君

防空法案(政府提出)委員

辭任春名 成章君 補關綾川 武治君

辭任松田喜三郎君 補關長尾秀太郎君

樺太市制案(政府提出、貴族院送付)委員

辭任南條 德男君 補關石坂 豐一君

農村負債整理資金特別融通及損失補償法
案(政府提出)委員

辭任柏木 清治君 補關高田 耘平君

裁判所構成法中改正法律案(政府提出、
貴族院送付)外二件委員

辭任水谷長三郎君 補關松本治一郎君

○議長(富田幸次郎君) 會議ヲ開キマス

此際暫時休憩致シマス

午後二時二十一分休憩

午後四時五十九分開議

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會

議ヲ開キマス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタル

質問一乃至九ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ

受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマ

ス、議事進行ニ付テ發言ヲ求メラレテ居リ

マス——三宅正一君

〔三宅正一君登壇〕

○三宅正一君 私ハ議事進行ニ關シマシ

テ、議長ニ質問ヲシタイト考ヘルノデゴザ
イマス、會期ガ迫リマシテ、議案山積ノ爲

ニ、政府ガ特ニ會期六日間ノ延長ヲ奏請致
シマシテ、サウシテ議事ノ進行ヲ圖ラント
シツ、アリマスルノニ對シマシテ、延會サ
レマシタ此議場ハ、委員會ハ流會ニ了リ、
本會議ハ毎日殆下數時間ヅ、延刻サレツ

ツアルト云フコトニ付キマシテハ、吾々ハ

何ノ爲ニ政府ガ會期延長ヲ奏請サレタノデ

アルカニ付キマシテ、疑ハザルヲ得ナイ

ノデアリマス(拍手)而モ新聞紙上其他ニ

傳ヘラレテ居ル所ニ依リマスルナラバ、此

議事ノ遷延ハ、選舉法ノ改正ト人權蹂躪ニ

絡ミマシテ、所謂今日選舉違反ニ繫ツテ

居リマスル諸君ヲ、此選舉法改正案ヲ通

過セシムルコトニ依ツテ、サウシテ之ヲ無罪

ニセヨウト云フ底意ノ下ニ、其選舉法改正

ニ對シマシテ、政府ニ同意ヲ強要スル爲ニ、

故意ニ秘密代議士會等ノ名前ニ依ツテ、其議

事ヲ遷延シテ居ルト云フコトガ傳ヘラレテ

居リマスルコトハ、私共ハ議會ノ權威ノ爲

ニ、甚ダ嘆カザルヲ得ナイノデゴザイマス

(拍手)諸君、一週間ノ——六日間ノ會期ヲ

延バシマシタノモ、モウ明日一日ヲ殘シテ

居ルダケデアアル、吾々ハ定刻ヨリ之ヲ開

キ——寧ロ午前十時カラ議事ヲ開キマシテ、

山積セル議案ヲ通過セシメマスルコトガ、

國政ニ忠實ナル所以デアルト考ヘテ居ルニ

モ拘ラズ、數時間ニ互ツテ議事ヲ遷延サセ、

而モ新聞紙上ニ傳ヘル所ニ依レバ、選舉法

改正ノ問題ニ絡ミマシテ、或ハ安藤政友會

幹事長ガ總理大臣ト會見サレ、或ハ又農林

大臣ト會見サレマシテ、サウシテ農林大臣

トノ會見ニ於キマシテハ、新聞紙上傳ヘル
所ニ依レバ、選舉法ヲ通スコトニ付テハ政
府モ協力スルガ……

○議長(富田幸次郎君) 三宅君ニ注意致シ

マス

○三宅正一君(續) 其時期ニ付テハ言明ス

ルコトガ出來ナイト言ツテ、二十分デ立別レ

ニナツト云フ此事實ハ、即チ私共ハ不純ナ

ル動機ヲ以テ、議事ヲ遷延セシメントスル

所ノ、態度デナケレバナナイト考ヘテ居

ルノデゴザイマス、斯ノ如キ態度ニ對シマ

シテ、私共ハ議會ノ權威ニ對シマシテ、斯

ノ如キ態度ヲ以テ議事ヲ遷延サセルガ如キ

コトニ付キマシテハ、議會ヲ護テ行ク上ニ

於テ、國民ノ審議權ヲ自ラ拋棄スルノ態度

デアツテ、國政ニ忠實ナル所以デハナイト考

ヘルノデアリマス、此點ニ付テ、吾々ハ議

長ニ斯ノ如キ議事ノ遷延ニ對シテ、議長ガ

議事ヲ進行スルノ態度ヲ執ラレルト共ニ、

私ハ若シ斯ノ如キ態度ヲ既成政黨ガ棄テラ

レナイナラバ、政府ニ向ツテ議會ヲ解散スル

ノ意氣ヲ以テヤラナケレバイカナイト云フ

コトヲ、私ハ議長及ビ政府ニ向ツテ要望セ

ザルヲ得ナイノデゴザイマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 三宅君ニ御答致シ

マス、議長ト致シマシテハ、議事ノ圓滿ナ

ル進行ヲ圖ランガ爲メ、已ムヲ得ズ只今マ

デ休憩致シマシタ次第デアリマス(拍手)今

期議會ハ本會議及ビ委員會トモ非常ナ勉強

デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス(拍手)

○服部晴市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第四及第五ノ兩案ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ

――日程第四、産業組合中央金庫法中改正法律案、日程第五、産業組合自治監査法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス――農林大臣山崎達之輔君

第四 産業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第五 産業組合自治監査法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

産業組合中央金庫法中改正法律案
産業組合中央金庫法中左ノ通改正ス
第十二條第一項中「二十名」ヲ「二十五名」ニ改ム

第十四條ノ二 第十三條第二號但書ノ規定及前條ニ規定スル第十三條第二號但書ノ規定ハ産業組合中央金庫ガ政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ
前項ノ融通金額及之ヲ爲ス爲發行スル産業債券ノ額ハ第十三條第二號但書及前條ニ規定スル第十三條第二號但書ノ制限ノ計算上之ヲ算入セズ

第十五條第一項第一號中「買入」ノ下ニ

「又ハ引受」ヲ加ヘ同項ニ左ノ一號ヲ加フ

四 産業組合聯合會又ハ産業組合ノ發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ貸付ヲ爲スコト

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産業組合自治監査法案

産業組合自治監査法

第一條 産業組合ハ其ノ堅實ナル發達ヲ圖ル爲自治監査ヲ行フ目的ヲ以テ産業組合監査聯合會ヲ設立スルコトヲ得
産業組合聯合會ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ産業組合ト看做ス

第二條 産業組合監査聯合會ハ法人トシ全國ヲ通ジ一箇トス

産業組合監査聯合會ノ設立ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ産業組合ニ對シ産業組合監査聯合會ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 産業組合監査聯合會ノ設立アリタルトキハ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

産業組合監査聯合會ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四條 産業組合監査聯合會ハ産業組合

監査員ヲ設置ス

産業組合監査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

産業組合監査員ハ産業組合監査聯合會ニ屬スル産業組合ノ事務所、倉庫、加工場其ノ他ノ場所ニ臨ミ金錢、物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ調査シ當該産業組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得

産業組合監査員及其ノ行フ監査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 行政官廳ハ産業組合監査聯合會又ハ産業組合監査員ニ對シ産業組合ノ監査上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 産業組合監査聯合會ニハ所得稅ヲ課セズ

産業組合監査聯合會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第七條 本法ニ規定スルモノノ外産業組合監査聯合會ノ設立、登記、管理、監督、解散、清算其ノ他産業組合監査聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 産業組合中央會及産業組合中央金庫ハ産業組合監査聯合會ニ加入スルコトヲ得

第九條 産業組合ノ役員産業組合監査員ノ行フ監査ヲ拒ミタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

産業組合監査員第五條ノ規定ニ依ル命

令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

産業組合監査聯合會ノ役員本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣山崎達之輔君登壇)

○國務大臣(山崎達之輔君) 兩法律案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、産業組合中央金庫ハ、産業組合金融ノ中樞機關ト致シマシテ、其機能ヲ發揮致シツ、アルノデアリマスガ、現在組合金融ノ實情ニ應ジマシテ、其活動ヲ促進致シマスル爲ニハ、産業組合中央金庫評議員ノ定員、年賦償還貸付ノ制限、餘裕金ノ運用等ニ關シマシテ、不便ノ點ヲ改正致シマスコトガ必要ナルデアリマス、今回ノ改正ノ要點ハ、評議員ノ定員ヲ、現在ノ二十名以内トアリマスノヲ、二十五名以内ニ増加致シマスコト、第二、年賦償還貸付額ノ制限ニ關シマスル規定ヲ、政府資金ノ融通ニ關シテハ適用シナイト云フコトト致シマスコト、餘裕金運用ノ範圍ヲ擴張スルト云フ點デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ希望致シマス

次ニ産業組合自治監査ニ關スル法案ノ提案理由ヲ申上ゲマス、産業組合ノ發達ヲ圖リマス爲ニ、指導監督ノ施設ヲ充實致シマ

スコトハ、洵ニ緊要ナルノデアリマス、此爲ニ中央及地方ノ行政監督ノ施設ヲ擴充致シマスルト共ニ、産業組合自身ノ自治的監督ノ制度ヲ確立致シマシテ、自治監督ノ履行ヲ期スルコトヲ必要ト認メマシテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、即チ全國ノ産業組合ヲシテ、聯合會ヲ組織致サセマシテ、政府監督ノ下ニ監督員ヲ設ケマシテ、組合ノ監督ニ當ラシメントスルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ希望致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ハアリマセヌ

○服部崎市長 日程第四及第五ノ兩案ハ一括シテ、政府提出、農地法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市長 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第九及第十ノ兩案ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシ

タ——日程第九、帝國燃料興業株式會社法案、日程第十、人造石油製造事業法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長櫻井兵五郎君

第九 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
第十 人造石油製造事業法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 櫻井兵五郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 本事業ノ成否ハ國防、産業並國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラズ財政上尠カラザル負擔ヲ加増スベキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬遠算ナキヲ期スベシ
一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テハ其ノ調査並試掘ニ關シ積極の方針ヲ確立スベシ
一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハ之ヲ悉ク消費者ニ負擔セシメザルヤウ政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

報告書

一 人造石油製造事業法案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十二年三月二十九日

委員長 櫻井兵五郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 本事業ノ成否ハ、國防、産業並國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラズ財政上尠カラザル負擔ヲ加増スベキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬遠算ナキヲ期スベシ
一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テハ其ノ調査並試掘ニ關シ積極の方針ヲ確立スベシ
一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハ之ヲ悉ク消費者ニ負擔セシメザルヤウ政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

〔櫻井兵五郎君登壇〕

○櫻井兵五郎君 只今議題トナリマシタ帝國燃料興業株式會社法案外一件ノ委員會ノ經過結果ヲ御報告申上ゲマス、申ス迄モナク此二法案ハ、産業上、國防上、必要ナル資源デアアル液體燃料ノ自給促進ヲ圖ル爲メ、人造石油製造事業ノ振興確立ヲ目的トスルモノデアリ、極メテ重要ナル事項ニ關スルモノデアリマスルガ爲メ、各委員ハ前後五回ニ亙リ、極メテ熱心ニ審議セラレ、政府當局トノ間ニ質疑應答ガ重ネラレタノ

デアリマスルガ、其詳細ハ之ヲ速記録ニ譲リ、私ハ其中最モ重要ナル二三ノ點ノミヲ御報告申上ゲタイト存ジマス

先ヅ第一ニ本案ニ依リ政府ノ所期スル所ハ、人造石油製造事業振興計畫ニ於テ、七箇年計畫ヲ以テ、揮發油及重油各、百万坪ノ生産ヲ目標トシ、右計畫遂行ニ要スル所要資金總額約七億五千万圓ノ見込デアアルガ、其内五千万圓ハ既ニ民間ニ於テ企業化シ居ルヲ以テ、殘餘ノ七億圓ノ調達方法ニ關シ、民間企業ニ對スル投資ヲ主タル目的トスル、資本金一億圓ノ帝國燃料興業株式會社ヲ設立セシメ、本會社ニ對シテ政府ハ五千万圓ヲ出資シ、半官半民ノ特殊會社トスルト共ニ、幾多ノ保護助成ヲ與ヘ、其資本及比社債ヲ以テ、民間所要資金約七億圓ノ中、其約半額即チ三億五千万圓ヲ、民間會社ノ株式引受ノ形式ニ依ッテ投資シ、殘餘ハ民間會社ヲシテ調達セシメントスルモノデアリマス

主ナル質疑ノ第一點ハ、本計畫實現後ニ於ケル所要石炭ハ年約九百万噸デ、此供給ニ關シ不都合ヲ來サヌカ、又人造石油ハ技術的ニ、採算的ニ可能ノ確信アリヤトノ問ニ對シ、政府ハ石炭埋藏量ハ内地九十一億噸、外地三十七億噸、滿洲七十億噸デアリ、七年後一年ノ所要量九百万噸ハ、内地四百五十万噸、外地及滿洲合セテ四百五十万噸デアッテ、供給ニハ不足セストノ答辯デアリ、尙ホ技術的及比採算ノ點ニ關シテハ、本事業ハ新規事業ニシテ、現在ノ所

其生産費ハ、天然石油ノ生産費ニ比シ高價デアツテ、操業ノ當初ニ於テハ、液化法ニ依ル揮發油ハ一「ガロン」七十二三錢程度、合成法ニ依ルモノ六十四五錢程度ノ見込デアリガ、將來技術ノ進歩、作業ノ習熟等ニ依ツテ、相當生産費ハ低下スルモノト期待シテ居ルガ、天然石油ノ生産費トノ差額ヲ、人造石油製造事業法ノ規定スル通り、人造石油ニ對シテ其生産費、市價等ヲ標準トシテ獎勵金ヲ交付シ、其損失ヲ補填シ、以テ事業ノ採算化ヲ圖リ、結局ニ於テ現在ノ天然石油ニ對スル「コスト」ノ開キ十五錢乃至二十錢ヲ、殆ド接近ノ程度ニ縮減スル考デアルトノ答アリ、又技術ニ關スル問題デハ、其方法ハ液化法、合成法、低溫乾溜法等ニ依ルモノデアリガ、其中低溫乾溜事業ハ、既ニ企業化セラレテ居リ、別段懸念ナク、液化法、合成法ニ付テモ既ニ確信ヲ得、企業化セラレツ、アリ、何等懸念ナシト思料スル旨ノ答辯ガアリマシタ

第三點ハ、本計畫ト同時ニ、特ニ我國內外ノ石油資源ノ確保開發ヲ圖ルコトハ、最モ急務デアルトノ問デアリマシタガ、之ニ對シ政府ハ、國內資源ノ徹底の開發ヲ圖リ、油田地質ノ調査、試掘獎勵等ノ方策ヲ一層擴充整備シ、更ニ海外利權ノ調査並ニ獲得ニ對シテモ適當ナル施設ヲ講ジ、萬遺憾ナキヲ期スル旨ノ答辯ガアリマシタ

第四ノ要點ハ、本案ノ計畫ニ依レバ、七箇年間ニ獎勵費ガ九千五百萬圓、配當補給ガ二千萬圓、其他尙ホ免稅ノ特典ヲ與フルモノナル故、財政上相當ノ負擔トナルガ、政府ハ此點ニ關シ深キ考慮ヲ要スルトノ問ニ對シ、財政上ニ對シテハ今後十分戒心スル、經濟上ニ對シテハ國際貸借上重大ナル利益ガアリ、他面地下ノ資源ヲ事業化シテ、經濟振興ノ一助ニモナルトノ答辯ガアリマシタ

第五ノ要點ハ、價格昂騰ノ結果漁業者其他消費者ニ對スル不利益ヲ與ヘル、此點ハ拾遺ケヌデハナイカトノ問ニ對シ、政府ハ漁業者ニ對シテハ、既ニ二百萬圓ノ豫算ヲ以テ緩和方策ヲ採ッテ置イタ、尙ホ消費者一般ニ對スル對策ハ、別途ニ於テ方法ヲ講ジ

ヲ實施スルノ必要ガアリ、又事情ニ依ツテハ必シモ七年ヲ待タズシテ、其途中ニ於テモ本計畫ニ再檢討ヲ加ヘル場合モ豫想シテ居ル旨ノ答辯ガアリ、更ニ進シテ政府ヨリ秘密會ノ要求ガアリ、秘密會ニ於テノ答辯ニ依リ、質疑ノ懸念ハ相當緩和セラレタノデアリマス

ツ、アルトノ答辯デアリマシタ
其他設立委員ニ關スル件、軍事命令ノ内容ニ關スル件等、幾多ノ質疑應答ガ重ネラレマシタガ、最後ニ討論ニ入りマシテ、民政黨ノ野田武夫君ヨリ左ノ附帶決議ヲ附シ、政府原案ヲ認メタイトノ動議ガアリマシタ、今其附帶決議ヲ朗讀致シマス

附帶決議

一 本事業ノ成否ハ國防、産業並國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラズ財政上尠カラザル負擔ヲ加増スベキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬違算ナキヲ期スベシ
一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テハ其ノ調査並試掘ニ關シ積極の方針ヲ確立スベシ
一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハハラ悉ク消費者ニ負擔セシメザルヤウ政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

野田君ノ動議ニ對シマシテハ、政友會ノ八角三郎君ノ贊成ガアリ、採決ノ結果、野田君動議ノ附帶決議附ヲ以テ、政府原案ハ全會一致可決確定ヲ致シマシタ、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第六、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス
— 松阪政府委員

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第六乃至第八ノ三案ヲ繰上ゲ上程シ、逐次其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第六、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス
— 松阪政府委員

第六 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
第一讀會

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中左ノ通改正ス

第一條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

條約又ハ之ニ準スヘキモノニ前項ノ規定ト異ル規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員松阪廣政君登壇）

○政府委員（松阪廣政君） 只今上程セラレマシタル外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案ノ提出理由ヲ簡單ニ御説明申上

ガマス、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ハ、御承知ノ如ク、外國ノ裁判所ヨリ司法事務ニ關スル共助ヲ求メラレマシタ場合ニ、之ニ應ズルニ必要ナ條件、竝ニ之ニ應ズル場合ノ施行方法ヲ規定シタ法律デアリマス、而シテ右ノ條件ノ一トシテ、共助ヲ請求シタ裁判所ノ所屬國ニ於テ、我國ノ裁判所ガ共助事務ヲ施行スル爲メ要スル費用ヲ負擔スルコトヲ必要トシテ居ルノデアリマス、然ルニ現行ノ條約中ニ、共助事務ノ施行ヲ囑託セラレタ國ハ、自ラ費用ヲ負擔シテ囑託ニ應ズベキ旨ヲ規定シテ居ルモノデアリマス爲ニ、右法律ノ一部ヲ改正スル必要ヲ認メマシタノデ、本改正案ヲ提出致シマシ

タ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコトヲ切望スル次第デアリマス

○議長（富田幸次郎君） 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、裁判所構成法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長（富田幸次郎君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
○議長（富田幸次郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第七及ビ第八ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）
○議長（富田幸次郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第七、百貨店法案、日程第八、辨理士法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——商工大臣伍堂卓雄君

第七 百貨店法案（政府提出、貴族院送付）
第一讀會

第八 辨理士法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
第一讀會

百貨店法案

百貨店法

第一條 本法ニ於テ百貨店業者ト稱スルハ同一ノ店舗ニ於テ命令ヲ以テ定ムル

賣場面積ヲ有シ命令ノ定ムル所ニ依リ衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業ヲ營ム者ヲ謂フ

第二條 同一ノ建物ニ於テ二人以上ノ小賣業者各命令ヲ以テ定ムル賣場面積ヲ有シ相連繫シテ營業ヲ爲ス場合其ノ賣場面積及販賣スル商品ガ相合シテ前條ノ規定ニ依ル賣場面積及商品ノ種類ニ該當スルトキハ各小賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ百貨店業者ト看做ス

第三條 百貨店業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 百貨店業者ハ左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 支店、出張所其ノ他ノ店舗又ハ配給所ヲ設置セントスルトキ

二 本店、支店、出張所其ノ他ノ店舗ノ賣場面積ヲ擴張セントスルトキ

三 店舗以外ニ於テ小賣ヲ爲サントスルトキ

第五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ前二條ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第六條 百貨店業者ハ閉店時刻以後及休業日ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ營業ノ範圍、閉店時刻及休業日ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 百貨店業者ハ其ノ統制ヲ圖リ小

賣業ノ圓滿ナル發達ヲ期スル爲主務大臣ノ認可ヲ受ケ百貨店組合ヲ設立スルコトヲ得

第八條 百貨店業者百貨店組合ヲ設立セザル場合ニ於テ主務大臣必要アリト認ムルトキハ百貨店業者ニ對シ百貨店組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 百貨店組合ハ法人トス

百貨店組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 百貨店組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ營業ニ關スル統制

二 組合員ノ營業ニ關スル指導

三 小賣業ニ關スル研究又ハ調査

四 其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事業

第十一條 百貨店組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

百貨店組合ノ設立アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

百貨店組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之

ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第十二條 百貨店組合ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ組合ノ設立アリタルトキハ百貨店業者ハ其ノ組合員トス

第十三條 百貨店組合ハ第十條第一號ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十四條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ前條ノ規程ノ全部又ハ一部ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ百貨店組合ニ對シ組合員ノ營業ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十六條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ百貨店組合ノ組合員ニ對シ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ百貨店業者又ハ百貨店組合ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ百貨店業者又ハ百貨店組合ノ店舗、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ
第十八條 百貨店業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲シ又ハ第三條若ハ第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 百貨店組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消
二 役員ノ解任
三 組合ノ事業ノ停止
四 組合ノ解散

第二十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外百貨店組合ノ設立、登記、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分其ノ他本法施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ゼシムル爲百貨店委員會ヲ置ク百貨店委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ百貨店業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタル者
二 第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第六條ノ規定ニ違反シテ營業ヲ爲シタル者
二 正當ノ事由ナクシテ第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第二十五條 百貨店業者又ハ百貨店組合ハ其ノ代理人、店主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ營業ヲ爲ス百貨店業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

辦理士法中改正法律案
辦理士法中左ノ通改正ス
「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ改ム
第一條 辦理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スベキ事項ノ代理及其ノ事項ニ關スル鑑定其ノ他ノ事務ヲ行フコトヲ業トス

第二條 第一項第一號中「私法上ノ能力者」ヲ「成年者」ニ改ム
第三條 第二號中「若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗」ヲ「又ハ司法科試驗」ニ改ム

第四條 削除
第五條 左ニ掲グル者ハ辦理士タル資格ヲ有セズ
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十二條若ハ第二十二條ノ四、特許法

第二百二十九條、第三百十條若ハ第百

三十三條、實用新案法第二十七條、

第二十八條若ハ第三十一條、意匠法

第二十六條、第二十七條若ハ第三十

條又ハ商標法第三十四條若ハ第三十

五條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行

ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ

起算シ三年ヲ經過セザルモノ

三 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セ

ラレタル者、本法若ハ計理士法ニ依

リ業務ヲ禁止セラレタル者又ハ辯護

士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ

免官、免職、業務禁止又ハ除名ノ日

ヨリ起算シ二年ヲ經過セザルモノ

四 本法ニ依ル業務停止ノ期間中業務

ヲ廢止シ未ダ其ノ期間ノ經過セザル者

五 禁治產者又ハ準禁治產者

六 破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

第九條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠

又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於

テ當事者又ハ訴訟代理人ト共ニ出頭シ

陳述ヲ爲スコトヲ得其ノ陳述ハ當事者

又ハ訴訟代理人ガ直ニ之ヲ取消シ又ハ

更正セザルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモ

ノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非ザル

辨理士出頭シテ陳述ヲ爲サントスル

トキハ裁判所ノ許可ヲ受クベシ

第十二條ノ二 辨理士ハ勅令ノ定ムル所

第十五條 辨理士會ノ組織、權限及監督

ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 辨理士會ハ商工大臣ノ認可ヲ

得テ會ノ秩序又ハ信用ヲ害スル虞アル

者ヲ退會セシムルコトヲ得

第二十二條ノ二 辨理士ニ非ザル者ハ報

酬ヲ得ル目的ヲ以テ特許、實用新案、

意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲ス

ベキ事項ノ代理又ハ其ノ事項ニ關スル

鑑定若ハ書類ノ作成ヲ爲スヲ業トスル

コトヲ得ズ

前項ノ書類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ三 辨理士ニ非ザル者ハ利

益ヲ得ル目的ヲ以テ辨理士、特許事務

所其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ使用スル

コトヲ得ズ

第二十二條ノ四 第二十二條ノ二ノ規定

ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下

ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ辨

理士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト

雖モ仍其ノ資格ヲ有ス

本法施行ノ日ヨリ三年以内ニ從前ノ第四

條第二號ノ規定ニ該當スルニ至リタル者

ニ對シテハ本法施行後ト雖モ仍從前ノ第

四條第二號ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ從前ノ第四

條第三號ノ規定ニ該當スルニ至リタル者

ニ對シテハ本法施行後ト雖モ仍從前ノ第

四條第三號ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ際現ニ辨理士會ニ加入シ居ラ

ザル辨理士ニ付テハ本法施行後三月間ハ

第十二條ノ二ノ規定ヲ適用セズ右期間内

ニ從前ノ例ニ依リテ辨理士會ニ加入セザ

ルトキハ其ノ辨理士ノ登錄ハ效力ヲ失フ

特許法第二十條及第三百三十五條、實用新

案法第三十三條、意匠法第三十二條並ニ

商標法第三十八條ハ之ヲ削除シ實用新案

法第二十六條中「第十條乃至第三十三條」

ヲ「第十條乃至第十九條、第二十一條乃至

第三十三條」ニ、意匠法第二十五條中「第

十六條乃至第三十條」ヲ「第十六條乃至第

十九條、第二十一條乃至第三十條」ニ、商

標法第二十四條中「第十六條乃至第三十

條」ヲ「第十六條乃至第十九條、第二十一

條乃至第三十條」ニ改ム

本法施行前從前ノ特許法第三百三十五條、

實用新案法第三十三條、意匠法第三十二

條又ハ商標法第三十八條ノ規定ヲ適用ス

ベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依

ル但シ懲役トアルハ禁錮トス

本法施行前從前ノ特許法第三百三十五條、

實用新案法第三十三條、意匠法第三十二

條又ハ商標法第三十八條ノ規定ニ依リ處

罰セラレタル者ハ第五條第二號ノ改正規

定ノ適用ニ付テハ之ヲ第二十二條ノ四第

一項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ト看

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕

○國務大臣〔伍堂卓雄君〕 百貨店法案提出

ノ理由ヲ説明申上ゲマス、現下我國ノ中小

商業者ハ、疲弊困憊甚シク、是ガ更生振興

ヲ圖ルコトハ刻下ノ急務トナツテ居ルノデ

アリマス、固ヨリ中小商業者ノ窮迫ノ原因

ハ、複雜多岐ニ互ルノデアリマスガ、其有

力ナル原因ノ一トシテ、大規模經營ニ依ル

百貨店ノ進出ヲ舉ゲ得ルノデアリマス、百

貨店ハ其豐富ナル資本力、信用力ト、近代

的ノ組織經營トニ依リ、小賣制度ノ合理化

ニ貢獻シ、消費者ニ利便ヲ與ヘテ居ルコト

ハ申ス迄モアリマセスガ、他面ニ於キマシ

テ、其急激ナル進出ハ百貨店相互ノ競争ヲ

惹起致シマシテ、種々ノ弊害ヲ生ジ、是ガ

總テ消費者ニモ不利益トナルノミナラズ、

一般中小商業者ニモ鈔カラザル影響ヲ及ボシ

テ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ政府ハ曩ニ

日本百貨店商業組合ヲ組織セシメマシテ、

其營業統制規程ニ基キ、政府ノ監督ノ下ニ

各種ノ制限ヲ實施シ、一般中小商業者トノ

調整ヲ圖ルト共ニ、配給機關トシテノ百貨店

ノ機能ヲ圓滑ニシテ參ツクノデアリマス、然

ルニ最近ニ於テ百貨店ノ新設擴張相踵イデ

行ハレ、從來ノ商業組合ニテハ、十分其目

的ヲ達シ難イ狀態ニ立至リマシタノデ、社

會各方面ノ意見要望ヲモ參酌致シマシテ、

新ニ百貨店法ヲ制定シテ、百貨店ノ新設擴

張、並ニ其營業ニ適切ナル統制ヲ加ヘ、百

貨店相互ノ不當ナル競争ヲ排除スルト共

ニ、百貨店ト中小商業者トノ關係ヲ調整シ

テ、小賣業全般ノ圓滿ナル發達ヲ期センガ爲メ、茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス

辦理士法中改正法律案ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス、近時我國産業ノ進展ニ伴ヒマシテ、特許實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル出願請求等ハ、著シク増加致シマシテ、是等ニ關スル事務ニ従事スル辦理士ノ業務ハ、益々其重要性ヲ加ヘテ參リマシタガ爲ニ、辦理士ノ資格ヲ高メ、品位ノ向上ヲ圖リ、辦理士ニ對スル委囑者ノ信頼ヲ深カラシメ、其利益ヲ擁護致シマスト共ニ、法律上辦理士ノ業務範圍ヲ明確ニシ、以テ實情ニ副ハシムルコトトシ、且ツ辦理士ニアラザル者ノ辦理士類似ノ行爲ヲ行フコトヲ取締リマスコトハ、是等工業所有權ノ發達ヲ圖ル上ニ於テ、甚ダ肝要ナルコトト認メラレマスノデ、本案ヲ提出スルコトト致シタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシコトヲ御願申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——大島寅吉君

(大島寅吉君登壇)

○大島寅吉君 只今上程ニナリマシタル百貨店法ニ付テ、商工大臣ニ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、先ツ最初ニ御同致シタイコトハ、本法制定ニ際シマシテ、其立案ノ重點ヲ何レニ置カレタカデアリマス、

言換ヘマスレバ、中小商業者救済ニ重點ヲ置カレタカ、又百貨店統制ニ重點ヲ置カレタカデアリマス、抑、本法制定ノ沿革ヲ考ヘテ見マスルト、昭和三年百貨店商會ニ端ヲ發シマシテ、昭和七年八月、東京日比谷公會堂ニ於テ、全國小賣業者大會ガ開カレテ、百貨店法案制定要求ノ決議ヲ致シタノデアリマス、當時商工省モ百貨店ノ取締ノ必要ヲ感ゼラレマシテ、是ガ起草ニ著手サレタノデアリマスルガ、其事ガ偶々新聞紙上ニ現レマスルト、百貨店協會ハ非常ニ狼狽ヲ致シマシテ、自治協定案ナル八箇條ヲ發表ヲ致シテ、此法案阻止ニ努メタノデアリマス、而シテ翌年百貨店商業組合法案ガ制定サル、ニ至リマシテ、百貨店ハ此法案ニ從ヒマシテ、百貨店組合ヲ設立致シタノデアリマスルガ、爾來數年間、商業組合ノ不備缺陷ガ暴露スルニ連レマシテ、脫法行爲ガ簇出致シタノデアリマス、是ニ於キマシテ今日ノ窮迫セル中小商業者ヲ救済スルノ目的ヲ達シ得ナイノデ、六十三議會以來度々衆議院議員提出ノ法律案トナツテ、本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、中小商業者ノ疲弊困憊セル狀況ハ、本員ガ茲ニ喋々申上ゲルマデモナイノデアリマスルガ、彼等ハ窮餘ノ策ト致シマシテハ、或ハ問屋喰ヒト稱シマシテ、問屋カラ商品ヲ借入レテ、原價又ハ原價以下ニ賣却シ、或ハ金融ノ資ニ供シ、或ハ又生活ノ費用ニ充テテ居ルト云フヤウナ、悲慘ノ狀態ニアルノデアリマス、斯

ルコトハ寧ロ思想上ニモ重大ナル影響ヲ及ボスノデアリマス、然ルニ農村問題ガ出マスルト、社會政策的見地カラ、中小農業者ハ之ヲ救済セヨト申スノデアリマス、又工業問題ガ出マスルト云フト、中小工業者ヲ救済セヨト申スノデアリマス、然ルニ中小商業者ダケハ大資本ノ重壓ニ苦シミマシテ、非常ナル困難ノ狀態ニナリマシテモ、其救済ノ聲ガ比較的揚ラヌコトハ、本員甚ダ遺憾ニ感ズルノデアリマスガ、斯ル沿革トスル社會情勢ニ依リマシテ、本法制定ヲ見タノデアリマスルカラ、勿論中小商業者救済ニ重點ガ置カレナケレバナラスノデアリマス、然ルニ只今商工大臣ノ御説明ヲ承ツテ居リマシテモ、百貨店ヲ統制シテ小賣業者ヲ救済スルト、斯様ナ意味ニ申サレテ居ルノデアリマス、勿論百貨店ヲ統制スルコトモ、救済ノ一方法デアリマスルガ、併ナガラハ十分デナイノデアリマス、甚ダ消極的デアアルノデアリマス、殊ニ本案ノ全條ヲ通覽致シテ見マシテモ、果シテ重點ガ何レニ在ルカラ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、若シ其運用ノ如何ニ依リマシテハ、却テ百貨店保護トナリマシテ、中小商業者ハ、益々大百貨店ノ重壓ニ苦ムノ結果ヲ招來スル譯デハナイカト云フコトヲ、頗ル憂慮スルノデアリマス(拍手)故ニ私ハ先ヅ本法立案ニ對シマシテノ根本精神ヲ、何處ニ重點ヲ置カレタカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、以下是カラ逐條ニ就キマシテ數項伺ツテ、本案ノ全貌ヲ明ニシテ見タイト

思フノデアリマス
先ヅ第一ニ伺ヒタイコトハ、本法第三條、第四條ノ許可ノ場合、即チ新築ヲスルトカ、又ハ支店ヲ設ケルトカ、出張所ヲ設ケルトカ云フ、許可ノ場合ニ於キマシテ、是ハ二一條ノ委員會ニ御諮問ニナル御意思アリヤ否ヤヲ伺ヒタイノデアリマス、此二一條ヲ見マスルト云フト「第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分其ノ他本法施行ニ關スル重要事項」云々ト書イテアルノデアリマス、或ハ此許可ノコトヲ、重要ナル事項ト云フ中ニ御入レニナツテ居ル御考ガアルヤ否ヤハ、甚ダ不明デアアルノデアリマス、併ナガラ立法技術ノ上カラ考ヘテ見マスルト云フト、本案ノ骨子ハ何レニ在ルカト申シマスルト、許可制ヲ執ツタコトヲ、是レ即チ本案ノ最重要ナル骨子デアアルノデアリマス、故ニ斯様ナ場合ニ於キマシテハ、必ズ第三條乃至第四條ノ許可、或ハ十四條乃至十六條ノ處分命令、其他重要ナル事項ト記載スルノガ當然デアリマス、然ルニ此記載ガナイト云フコトハ、政府ハ諮問ナサラスト云フ意思デアルカモ知ラス、若シ之ヲ委員會ニ諮問ヲセナイト云フナラバ、大ナル誤リデアリマシテ、斯様ナル重大ナル事項ハ、無論諮問スルガ當然デアアルノデアリマス、若シ諮問スルト云フ御意思デアリマシテ、サウシテ其解釋ノ上ニ、又運用ノ上ニ於テ誤リナキヲ期スルノガ當然デアアルト思フガ、政府ノ御考ヲ伺ツテ置キタイ

第二ニ御伺シタイコトハ、許可ニ際シテ、現ニ營業ヲシテ居ルモノハ是ハ宜シイノデアリマス、所ガ準備中ノモノニ對シテハ、優先的ニ之ヲ御認めニナル御考デアルカ、或ハ又御認めニナルトスレバ、如何ナル程度マデ御認めニナルカヲ伺ヒタイノデアリマス、今日既ニ全國七十箇所以上ノ百貨店ガアリマシテ、是ダケデモ小賣業者トノ摩擦ガ益々激シクナルノデアリマス、ソコデ許可制ヲ採ラレタト云フコトハ諒ト致シマス、又元來此衆議院議員ノ先年提出致シタ所ノ、衆議院ヲ通過致シタ議案ニ依リマスルト、支店其他等ニ對シテハ、之ヲ禁ジテ呉レト云フ意味合ニナッテ居ルノデアリマス、先ヅ本案ニ對シマシテハ、許可ト云フ制度ヲ採ラレテ居リマスルガ、是ハ諒ト致シマス、若シ準備中ト云フ名目ノ下ニ、容易ニ之ヲ許可サル、ヤウナコトガアリマスルナラバ、ソレコソハ準備ヲスルモノガ色々出デ参リマセウ、サウシテ折角許可制ヲ採ラレタ所ノ精神ヲ洩却スルコトニナリマシテ、是ハ却テ百貨店保護トナリマシテ、幾多ノ弊害ヲ生ズルコトト思フノデアリマス、斯様ナ未ダ營業セザルモノニ對シテハ、準備ノ如何ニ拘ラズ、全然白紙ノ狀態ニ置キマシテ、サウシテ其許可ノ可否ヲ決スルコトガ宜シイト思フノデアリマスガ、之ニ對シマシテ商工大臣ハ如何ニ御考ニナッテ居ルカヲ伺ヒタイノデアリマス

第三ニ伺ヒタイコトハ、委員會ノ組織デアリマス、二十一條ノ二項ニ依リマスルト

「百貨店委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアルノデアリマスガ、其内容ヲ伺ヒマス、是マデ小賣業改善委員會等ヲ見マシテモ、商工省其他ノ役人ガ多イノデアリマス、其他學者ノヤウナ人ガ少數混テ居リマスルガ、僅ニ東京商工會議所ノ議員ガ一人加ハッテ居ルダケデアアルノデアリマス、是デハ實情ガ徹底シナイノデアリマス、要スルニ商工省ノ役人ノ決メタ案其モノガ通ルト云フコトニナリマシテ、折角委員會ヲ設置シタ初志ニ適ハヌノデアリマス、今更私ハ役人ノ惡口ヲ申サウトモ思ヒマセヌケレドモ、日本ノ役人ノヤリ方ナラバ、大概實情ニハ徹底シナイノデアリマス、ソレハ徹底ヲシナイ譯デアリマシテ、是ハ商工大臣ハ實業界ニモ居ラレタノデアアルカラ、能ク御存ジデアリマセウガ、善イ事ヲシテモ褒メラレナイノデアリマスルシ、手落ちガアレバ譴責サル、ト云フノガ、日本ノ役人ノヤリ方デアリマス、ソコデ型ニ嵌ッタ事ヨリヤラス、斯ウ云フノガ役人ノヤリ方デアリマシテ、實情ニハ徹底シナイ、故ニ私ハ此場合ニ於キマシテ、委員會ニハ各地區ニ於ケル所ノ營業者ノ代表者、或ハ又同業組合ニ於ケル營業者ノ代表者ト云フヤウナモノヲ、此委員ノ中ニ入レマシテ、本當ニ諮問機關トシテノ實績ヲ擧ゲシメラル、ト云フコトガ、洵ニ適當デアラウト思フノデアリマスガ、此委員會ノ内容ヲ承リタイノデアリマス

第四ニ伺ヒタイコトハ、第四條ノ三號ニ、

店舗以外ニ以テ小賣ヲ爲サントスルトキハ、許可ヲ受クベシトアルノデアリマスルガ、之ヲ禁止ナサル所ノ御意思ガナイカト云フノデアリマス、是ハ普通商人ガ申シマスル、所謂出張販賣ト云フノデアルト思フノデアリマスルガ、是ハ洵ニ地方ノ小賣業者トノ摩擦ヲ多クスルノデアリマシテ、又場合ニ依リマスルト、其地方ニ於ケル百貨店トノ競争ヲ起シマシテ、甚ダ弊害ガ多イノデアリマス、彼等ノ多クハ所謂二番物ト稱シマシテ、素人ノ分ラナイヤウナ品物ヤ、或ハ棚晒ノヤウナ品物ヲ、購買心ヲ唆ルヤウニ、大百貨店ノ「マーク」ヲ以テ安く賣出スノデアリマス、殊ニ又彼等ハ最モ好イ季節ニ、最モ短時日ダケノ間之ヲヤルノデアリマスルカラ、經費ヲ多ク要サナイノデアリマス、又地方ニ於ケル税金ナドモ負擔致サヌノデアリマス、ソコデ益々濫賣ヲ致スノデアリマスルガ、斯様ナコトハ許可制ナドト云フヤウナコトデナクシテ——或ハ商工大臣ハ許可ト云ッテモ、容易ニ許可ハシナイノダト云フヤウナ御考デアアルカモ知レマセスガ、是ハ抑、官吏萬能主義ト云フヤウナモノデ、ソナニ容易ニ許可ヲシナイデアラウト云フヤウナコトデアアルナラバ、寧ロ斷然ハ法律ヲ以テ禁止スルコトガ適當デアリ、又此位ノコトヲシナケレバ、小賣業者ノ救済ニハナラスノデアリマス、斯ル點ガ私ハ何レニ重點ヲ置カレタカト云フヤウナ點ニ、不審ヲ懷ク一點デアリマスルガ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス

第五ニ伺ヒタイコトハ、廣告用或ハ宣傳

用トシテノ濫賣ハ、之ヲ絕對ニ禁止ナサル御意思ガアリヤ否ヤト云フノデアリマス、百貨店ハ間々自己店舗ノ廣告用ト致シマシテ、破格ノ濫賣ヲ致スノデアリマス、是ニハ二ツノ大キナ弊害ガアルノデアリマスルガ、彼等ハ先ヅ損失ヲ初メカラ見越シテ居ルノデアリマスルカラ、ソコデ多ク賣レテハ困ルノデアリマス、一人一箇デアルトカ、或ハ二箇デアルト云フヤウナ工合ニ、數量ヲ限リマシテ、サウシテ之ヲ四ニ使ヒマシテ販賣ヲシテ、賣付ケヨウト云フノガヤリ方デアアルノデアリマス、又今一ツハ、生産者ヲ極度ニ苦シメルノデアリマス、サモナクテモ生産者ハ、大資本家ノ横暴ニ苦シメラレマシテ、平素不引合ノ程度ニマデ進ンデ居ルノデアリマスガ、百貨店ガ其間政策ヲヤラウト致シマス、先ヅ生産者ニ向ッテ「サビース」ヲ命ズルノデアリマス、コ、デ生産者ハ全ク不引合ノ餘リ、多數ノ倒産者ガ出ルコトハ、是ハ幾ラモ實例ガアルノデアリマス、ヨク三年百貨店ト取引ヲ致シマスルト、大概ノ大キナ店モ、生産者ハ倒産シテシマフト云フコトガ言ハレルノデアリマス、是ガ又生産者自身ガ倒レテ居ル中ハマダ宜シイガ、生産者ガ遂ニ堪ヘ切レナクナリマスト云フト、之ヲ職工賃銀ニ轉嫁致スノデアリマス、茲ニ至リマシテ大百貨店、大資本家ノ横暴搾取モ、亦甚シイト私ハ言フノデアリマス、是ハ實ニ社會問題デアルト思フノデアリマス、斯様ナコトハ中小商業者ノ

保護ト云フヨリハ、寧ロ中小工業者保護デアルノデアリマスカラ、工業法ニ依ッテ之ヲ保護スルノガ當然デアリマス、併ナガラ斯様ナ弊害ノアル所ノモデアリマスカラ、是ハ斷然禁止スルガ宜シイ、或ハ商工省ノ御考デハ、百貨店組合ヲシテ、其組合規約ニ依ッテ、自制反省セシムルト云フヤウナ御考デ居ラレカモ知レヌガ、ソシテ消極的ナ態度ニ出デズシテ、積極的ニ之ヲ禁止スルト云フコトガ最モ宜シイと思ヒマス、是ガ又摩擦ヲ防グ所以デアルト思ヒマスガ、之ニ對シテモ伺ヒタイノデアリマス

第六ニ伺ヒタイノハ、閉店時間及ビ休業日デアリマス、是ハ命令ヲ以テ定ムトナッテ居リマスガ、其命令ノ内容ヲ承リタイ、抑、是ハ極ク簡單ナ問題デアリマスルガ、小賣業者ニ對シマシテハ、至極重大ナル直接影響ノアル問題デアリマスカラ、中小商業者救済ト致シマシテハ、慎重ニ御考慮ヲ願ヒタイノデアリマスルガ、私ハ夜間營業ノ如キハ、斷然之ヲ禁止スルノガ宜シイと思フノデアリマス、又休業日ニ對シマシテモ、日曜日或ハ大祭日ノ如キハ、休日トスルコトガ宜シイと思フノデアリマスルガ、併ナガラ是亦百貨店モ營業政策モアリマスシ、或ハ又消費者ノ便利モ考ヘナケレバナラスノデアリマスルカラ、故ニ之ヲ假ニ日曜日ヤ大祭日ハ出來ヌト致シマシテモ、ソレデモ少クトモ大都市ニ於テハ四日間ノ休業日ヲ決定スル、又小都市ニ於テハ、少クトモ二日間位ノ休業ヲスルト云フコトガ宜シイ

ト思フ、若シ一日位ノ休業日トスルナラバ、ソレハ決メナイ方ガ寧ロ宜シイ位デアアルノデアリマス、一日位ノ休業日ハ、如何ナル店デアリマシテモ、店員ヲ擁スルヤウナ店デアレバ、一日ノ公休日ガアルノデアリマスルカラ、斯様ナコトハ御決メニナラナクテモ——御決メニナルコトガ、却テ弊害ガアルト思フノデアリマス

最後ニ一ツダケ伺ッテ置キタイノハ、百貨店ヲ重要物產組合ヤ、或ハ又地方ニ於ケル同業組合ニ加入セシムルノ御意思アリヤ否ヤデアリマス、是ハ小賣業者トノ摩擦ヲ防グニハ、最モ大切ナ問題デアリマスルガ、商工省及ビ各府縣ニ於ケル商工課ニ於キマシテハ、重要物產組合或ハ同業組合ノ設立ヲ獎勵致シテ居リマスルケレドモ、百貨店ニ於キマシテハ、之ニ加入ヲシナイノデアリマス、故ニ組合ノ權威ヲナクシ、統制ヲ案シテ、意義ナカラシムルノデアリマスルガ、百貨店ヲ加入セシムルコトニ依リマシテ、同業組合ノ意義ヲアラシメ、サウシテ小賣業者トノ摩擦ヲ防止スルコトガ出來ルト思フノデアリマスルガ、是等ニ付テノ所見ヲ承リタイノデアリマス、甚ダ皆サンガ御急ギニナリマスルカラ、私ハ商工大臣ノ御説明ノ中ニ、本員ノ腑ニ落チナイ點ガアリマシテモ、再質問ハ致シマセヌカラ、簡單明瞭ニ御答辯ヲ煩ハス次第デアリマス(拍手)

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 簡單ニ御答致シ

マス、本法ノ重點ハ、中小商業者ノ救済ガ主デアリマシテ、其爲ニ統制ヲ致スノデアリマス、御趣旨ノ第二、第三、第四、其他ノ條項ニ對シマシテハ、委員會ニ於テ諮問スル積リデアリマス、第三ノ委員會ノ構成ハ、只今考ヘテ居リマスノハ、貴衆兩院議員、經驗者、商工會議所、竝ニ道府縣市ヨリノ代表者ヲ以テ致ス積リデアリマス、第四、出張販賣ノ許可ハ、中小商業者ノ營業ニ付テ十分ニ調査致シテ許可スル積リデアリマス、第五、濫賣、廉賣ニ付キマシテハ、嚴ニ百貨店組合ヲシテ統制セシムル積リデ居リマス、第六、閉店時間、休業日等ハ、地方の事情ニ依リ定ムルモノデアリマシテ、一率ニハ致シ難イノデアリマス、最後ニ同業組合ニ加入ヲ強制スルカ否カト云フコトニ付キマシテハ、只今ハ強制スル積リハアリマセヌガ、十分ニ同業組合ト協調連絡ヲ保タシムル積リデ居リマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 鶴惣市君

(鶴惣市君登壇)

○鶴惣市君 本法案ガ生死ノ浮沈ニ喘ギツツアル全國大多數ノ中小商業者ニ對スル、一種ノ同情的立法精神ニ基イテ提案サレタト云フ、只今ノ御説明ニ對シテ、一應感謝ト敬意ヲ拂フ者デアリマス、今日ノ商業者、就中小商業者ニ對スル政府ノ恩惠ト云フモノハ、昨夏ノ臨時議會ニ於テ、辛ウジテ商工組合中央金庫法ノ成立ヲ見タ位デアリマシテ、遺憾ナガラ本議場ニ於キマシテハ、中小商業者ニ對スル同情の一片ノ論題サヘ

モ、寡聞ニシテ聞カナカッタノデアリマス、私ハ先ヅ本法案ノ質疑ニ入ルニ先ダチマシテ、便宜上現下ニ於ケル脆弱ナル中小商業者ノ生活狀況ニ付テ、商工大臣ノ御認識ノ程度ヲ伺ッテ見ル必要ガアルト思フノデアリマス、最近取扱ハレマシタル一二ノ實例ニ徴シマシテモ、現下ノ中小商業者ハ、朝ニ一塞ヲ抜カレ、夕ニ一城ヲ奪ハレルト云フ文句ヲ其儘ニ、逐日其職場ヲ奪ハレツ、アルノデアリマシテ、若シ今日ノ傾向ヲ以ッテ拱手爲ス所ナク、徒ニ時日ヲ遷延セシムルヤウナコトガアレバ、全國總テノ中小商業者ハ、窮極沒落ノ運命ヲ迎ル以外何等ノ方法ハナイト、遺憾ナガラ斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、昨夏ノ臨時議會ニ於キマシテ、米穀自治管理法案ガ通過シ、肥料統制法案ガ可決サレタノデアリマス、固ヨリ私ト雖モ今日ノ農村ガ現下ノ窮乏ヲ以テシテハ、保命尙ホ難シト爲ス認識ニ異議ヲ唱ヘルモノデハ斷ジテアリマセヌ、隨ヒマシテ此米穀自治管理法案、其他農村關係ノ重要法案ノ通過ニ際シマシテモ、私ハ私ノ有スル努力ヲ致シタノデアリマス、是同様ノ意味ニ於キマシテ、窮乏其極ニ達セントシツ、アル現下中小商業者ニ對シテモ、國家ガ何等カノ對策ヲ講ズルト云フコトハ、平等公平ヲ以テ政治最高ノ要諦ナリト爲ス政府當局トシテハ、特ニ心スベキコトデハナイカト思フノデアリマス(拍手)

例言スレバ米穀自治管理法ノ實施ハ、イタイケナル米穀商人ノ職場ヲ縮小シ、肥料

統制法ハ肥料商人、産鹼處理統制法案ハ鹼仲買人、斯クシテ職ヲ奪ハレ、且ツ奪ハレントシツ、アル彼等脆弱ナル中小商人ハ、政府ノ經濟政策ノ犠牲トシテ、其儘失職ノ奈落ニ突落サレントシツ、アルノデアリマス、世ニ全體主義ト云フ言葉ガアリマス、此言葉ハ最近特ニ非常時國家トシテ盛ニ用ヒラレツ、アル言葉デアルガ、如何ニ全體主義立場カラトハ云ヘ、而モ小商人ノ職場ヲ奪ヒ、之ヲ斬捨御免的ニ抛擲シテ顧ミナイト云フコトハ、政治ノ何モノカラ解スル者ニ取ツテ、執ルベキ手段デハ斷ジテアリマセヌ(拍手)

前議會以來政府ノ答辯ニ依レバ、即チ商工組合中央金庫法案ハ、其代案トシテ提出サレタヤウデアルガ、果シテ然ラバ本法實施ニ依ツテ、其國家ノ惠澤ニ浴シ得タル者幾人アリヤ否ヤ、成程形式的ニハ、其惠澤ハ全商工階級ヲ含ムカモ知レマセヌ、併ナガラ之ヲ實質的ニ受入レル爲ニハ、先ヅ確固タル擔保物件ノ提供ガ必要デアリマス、然ラザレバ財の信用アル保證人ガ必要デアル、即チ中小商工業者ガ國家ニ其零細ナル資金ヲ求メテ已マナイノハ、決シテ暖衣飽食ノ富裕階級デハゴザイマセヌ、左様ナ内容の資格條件ヲ持ツ階級コソハ、敢テ國家ノ力ヲ藉ラナクテモ、立派ニ獨立自營ノ途ガ立ツ人々デアリマス、私ガ茲ニ言ハントスル階級コソハ、其資格ヲ持タナイ、換言スレ

バ國家ノ恩惠サヘモ受入レルコトノ出來ナイ、全國大多數ノ中小商業者ヲ指スモノデゴザイマス、斯クシテ此氣ノ毒ナル全國大多數ノ商業者ハ、天日ヲ仰グコトナクシテ、日々爲政者ニ疎セラレ、遂ニ今日切羽詰タ現實ニ迫達マレテ來タノデアリマス、伍堂商工大臣ハ如何ナル抱負ト對策ヲ以テ、之ニ當ラレントスルノデアルカ、或ハ又此中央金庫法ヤ、今茲ニ提出サレタ百貨店法ヲ以テ十分ナリト思惟サル、ノデアリマスカ、之ニ對スル確固タル御説明ヲ承リタイノデアリマス(拍手)

分ケテモ近來私ガ最モ不可解トスル所ニ、軍部方面ノ商工民輕視ノ傾向ガアルヤウニ思ハル、ノデアリマス、一昨々年來主トシテ軍部方面ヨリ流レテ來マス「パンフレット」若クハ其言フ所ヲ綜合致シマスニ、農村ハ兵營ノ母體ナリト云フヤウナ名調子ノ下ニ、切々窮乏農村ノ實體ニ付テハ熱意ヲ注ガレテ居ルヤウデアリマスガ、窮乏中小商業者ニ對シテハ、一片同情ノ文字スラ發見スルコトガ出來得ナイノデアリマス(拍手)是ハ一體何ノ意味スルモノデアルカ、之ニ對スル軍部當局ノ御説明ヲ御願シタイノデアリマス、農村ハ兵營ノ母體ナリ、如何ニモ此言葉ノ響キノ中ニハ、兵營ハ農村ノミニ重キヲ置イテ居ルカノ如キ味ヲ含ンデ居リマス、又文字自體ノ解釋カラ致シマシテモ、是ハ明ニ全國大多數ノ中小商工

業者、或ハ勞働者、「サラリーマン」ナドヲ除外シテ居ルノデアリマシテ、其影響スル所モ、亦精神的ニハ甚大ナルモノアリト私ハ憂フル者デアリマス(拍手)幸ニ此私ノ認識ニ若シ過チガアレバ、之ニ越シタル喜ビハナイノデアリマシテ、此際軍當局ノ意圖ヲ鮮明ニシテ置クト云フコトハ、極メテ重要ナル事柄デアラウト思フノデアリマス(拍手)

申ス迄モナク日本ノ軍隊ハ、國家ヲ母體トシテ存在シテ居ルノデアリマス、畏クモ明治大帝陛下ハ、明治二年國民皆兵ノ徵兵令ヲ換發サレタノデアリマシテ、由來國民ハ如何ナル階級ヲ問ハズ、自ラ國家ノ干城タリ得ル光榮ト誇リ持ツ者デアリマス、國民ガ國家ノ干城トシテ、身命ヲ銃砲彈ノ巷ニ曝スト云フ護國ノ念願ハ、今日ノ如ク非常時の空氣ガ緊迫シテ居レバ居ルダケ、更ニ一層切ナルモノガアルノデアリマス(拍手)換言スレバ、國家ノ軍人タルコトハ、其何人タルト問ハズ、自ラ誇トシ、自ラ光榮トスル所デアツテ、苟モ階級ヤ職業ヲ區分シテ偏重スルコトヲ許シマセヌ、農民ガ國家ノ礎石デアルト同様ニ、商工民モ、亦國家ノ礎石デアラネバナリマセヌ、農民ニ粗食ヲ與ヘルコトガ、軍部ノ所謂廣義國家デアリトスレバ、惱メル中小商業者ニ對スル粗食ヲ與ヘルコトモ、亦廣義國家デアラネバナラス筈デアリマス(拍手)其中小商

業者ガ、今日如何ナル窮乏生活ニ悩ミツ、アルカト云フコトニ付キマシテハ、官僚諸君等ノ所謂見榮ヤ外見ニ依ル皮相ノ觀察デハ斷ジテ分ル筈ハアリマセヌ(拍手)農民ガ粗衣粗食ニ甘ンジテ、營々トシテ其職務ニ忠實ナル如ク、今日ノ下級商工民ハ、官僚諸君ノヤウニ、生活モ保障サレズ、恩給モ貰ハズ、勞働時間ノ制限モナク、二六時中デハアリマセヌ、ソレコソ四六時中其職務ノ爲ニ、血ノ滲ムヤウナ惡戰苦闘ヲ爲シツ、アルノデアリマス(拍手)ニモ拘ラズコ、數年來、此氣ノ毒ナル下級商工民ハ、國家一片ノ同情アル施設ニ接セズ、其悲壯ナル叫ビハ徒ニ非常時ノ聲ニ抹殺セラレテ、敢テ等閑ニ付シテ顧ミラレナイ、ト云フコトハ、彼等ガ農山漁村民ト同様ニ、國家ノ柱石デアルト云フ意味ニ於キマシテ、私ノ最モ慨歎ニ堪ヘナイ所デアリマス、而シテ其窮乏ノ結果ガ、世上動モスレバ不穩ノ形勢ヲ醸サントシ、或ハ對農村摩擦トナツテ現レツ、アルコトヲ憂慮スル者デアリマス、都市對農村ノ對立激化ハ、今ヤ内面的ニ蔽フベカラザル事實デアリマス、而シテ農村ガ國家施設ノ上ニ於テ、都市ニ劣ルモノアリト爲ス事實モ、亦蔽フベカラザル所デアリマス、私ト雖モ窮乏農村ノ實體ヲ否定セントスル者デハアリマセヌ、併ナガラ如何ニ都市ガ農村ニ優ルモノアリトハ云ヘ、其事實ヲ以テ直チニ都

市生活者ノ大部分ヲ占ムル下級大多數ノ商工民ノ窮乏ヲモ、否定シ去ラントスルコトハ、斷ジテ出來マセヌ(拍手)

外觀カラ見ル中小商工業者ノ生活苦ハ、或ハ農村程ニ深刻デハナイカモ知レマセヌ、商賣人ヲオ役人カラ見レバ、或ハ利益ノ攫ミ取り位ニ考ヘラレテ居ルカモ知レマセヌガ、營業上ノ壓引カラ言ヘバ、決シテソナモノデハアリマセヌ、假令内輪ハドシナニ苦シクテモ、敢テ外見ヤ見榮ヲ張ラナケレバナラヌノガ、彼等ノ實體デアルカラデアリマス、然ルニ世上動モスレバ彼等ヲ以テ暴利ヲ貪ル者デアルカニ思フノデアリガ、他ノ大財閥、大資本家ノ如ク、強大ナル資本力ヲ以テ、「カルテル」ヤ「トラスト」ヲ結成シ、人爲的價格ノ吊上ヲ爲シ得ルモノデアレバ率ザ知ラズ、無ケナシノ資本ヲハタイテ、辛ウジテ其日ノ生活ニ呻吟シツ、アル彼等ヲ以テ、營利主義ト稱スルコトスラ當ラナイデアリマス、自由競争經濟下ニ於ケル顧客ノ獲得ハ、全ク血ミドロノ鬭デアリマス、利益ヲ高ク貪リ、暴利ヲ恣ニスルト云フコトハ、一面ニ於テ忽チ顧客ヲ失フコトニナルノデアリマシテ、此深刻ナル條件下ニ立タサレテ居ル彼等デアリ以上、何處ニ暴利ヲ貪ル餘地アリヤト言フベキデアリマス、而シテ彼等ガ其困苦ヲ而シテ産業經濟ニ貢獻シツ、アル事實ハ、斷ジテ見逃スコトハ出來マセヌ、卑近ナ例

ヲ藉リテ申セバ、彼等ノ掛賣制度ノ如キ即チソレデアリマス、僅カ通帳一ツニ全幅ノ信ヲ置き、十五日勘定、或ハ一箇月ト、其間辱弱キ「サラリーマン」ヤ又ハ勞働者群ノ爲ニ、零細ナル資金ノ結晶タルベキ商品ノ融通ヲ爲シツ、アル行爲ハ、俱ニ社會ニ惠マレザル國民大衆ノ生活ヲ助ケツ、アルノデアリマシテ、斯クシテ彼等ハ其困苦ヲ犠牲トシ、其忍耐カヲ動員シテ、自ラ國家ニ代ジテ此重大ナル役割ヲ果シツ、アルニモ拘ラズ、國家ハ何ヲ以テ之ニ酬ヒントシツツアルノデアアルカ、都市ガ農村ニ對比シテ優レリト爲ス國家ノ惠澤デサヘモ、彼等ニハ壁ニ畫ケル一片ノ餅程ノ效果ヲ齎シテ居リマセヌ、更ニ都市ニ於ケル「サラリーマン」ヤ勞働群ノ失業者モ、必然彼等ノ職場ニ侵蝕シ、今ヤ彼等ノ部門ニハ同志討ノ悲慘ナル結果ヲ招來シツ、アルノデアリマス、剩ヘ最近ニ於ケル産業組合ノ進出、購買組合ノ擴大、更ニ百貨店ノ擡頭ニ至ッテハ、彼等ノ職場ヲシテ一層萎縮小セシメツ、アツタノデアリマス、其當然ノ成行コソハ、總テ中小商業階級沒落ノ挽歌トナリツツアルコトハ、又必然ノ趨勢デアリマス、質實朴訥ナル農山漁民ガ、今ヤ生死ノ間ニ彷徨シテ、國家ノ溫キ救ヒノ手ニ縋ラントシツ、アル事實ハ、私共ノ見逃スコトノ出來ヌ悲シムベキ事實デアリマス、併ナガラ之ヲ救フニ急ナルガ爲ニ、同ジク生死ノ

間ヲ彷徨シツ、アル全國大多數ノ商工民ヲ、等閑ニ付スルト云フコトハ斷ジテ許シマセヌ

先年流血ノ慘事ヲ惹起シタ、彼ノ米穀自治管理法案ヲ中心トスル、農民對中小商工民ノ血ノ滲ムガ如キ對立抗爭ハ、果シテ何ヲ意味スルデアリマセウカ、固ヨリ農民ノ叫ビ聞クベシデアリマス、ソレト同時ニ商工民ノ悲痛ナル叫ビモ亦聞クベシデアリマス、私ハ敢テ一ヲ上トシ一ヲ下トセントスル者デハアリマセヌ、此兩者ノ叫ビコソハ、共ニ兩階級ヲ通ジテノ生活擁護ノ必至ノ叫ビデアアルカラデアリマス(拍手)唯此場合ニ於ケル問題ハ、政府當局ガ所謂時局ニ對スル認識ノ如何デアリマシテ、一視御同仁ノ聖旨ノ下ニ、一ガ救ハレ他ガ救ハレザルト云フ如キ不公平ハ、斷ジテ許サルベキデアリマセヌ、私ハ以上ノ認識ニ基キマシテ、政府當局者ガ是等氣ノ毒ナル人々ノ爲ニ、商工政策乃至ハ社會政策的ノ立場カラ、一遍デモ宜イ、考慮サレタコトガアルカドウカ、若シアルトスレバ、如何ナル抱負ト對策ヲ以テ之ニ對處セラレントスルノデアアルカ、願クハ本議場ヲ通ジテ、全國大多數ノ窮乏商工民ノ爲ニ、一片同情アル御説明ヲ承リタイノデアリマス(拍手)

尤モ本百貨店法案ハ、只今商工大臣ノ御説明ニナツタ如ク、ソレ等中小商人ニ對スル窮乏緩和ノ、一種ノ掩護の意味ノ下ニ提案サレタト云フ、當局ノ御趣旨ニ對シマ

シテハ、私滿腔ノ熱意ヲ以テ感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス、百貨店ノ進出ニ依リ、中小下級ノ商人ガ其大資本力ニ押サレ、日々職場ヲ侵蝕サレツ、アル實情ニ付テハ、既ニ私ノ前述シタ所デアリマス、是ハ如何ナル理由ヲ以テモ否定出來ナイ事實デアリマシテ、之ヲ此儘擲シテ顧ミスト云フコトニナリマスレバ、窮極今日ノ中小商人ハ沒落スル以外ニ方法ハナイノデアリマス

固ヨリ私ト雖モ今日ノ文化社會ニ於テ、百貨店ノ存在ヲ其故ヲ以テ否定セントスル者デハアリマセヌ、唯此場合ニ於ケル過渡的便法トシテハ、百貨店ノ進出ヲ無制限ニ許可セスト云フコトデアリマス、幸ニ此法案ガ此意味ニ於テ許可制度ヲ採ラレタト云フコトハ、極メテ時宜ニ適セルモノトシテ、私ノ最モ意ヲ強ウスル所デアリマス、併ナガラ許可制ト申シマシテモ、許可ハ即チ可能ヲ意味スルガ故ニ、當局ノ認識如何デハ濫立ノ虞必シモナシトシナイノデアアル、而シテ「デパート」ノ濫立ノ結果ガ、如何ナル實情ヲ招來シツ、アルカト云フニ、其當然ノ結果コソハ、結局彼等ノ顧客爭奪激化以外ノ何物デモナイノデアアツテ、其激化スル所必然的ニ競争濫賣トナツテ現レツ、アルノデアリマス、隨ヒマシテ其影響スル所ハ、唯單ニ「デパート」相互ノ財的破綻ニ止マラズ、延イテハ小資本ニ依ッテ、辛ウジテ其日ノ

營業ヲ營ミツ、アル中小商人ノ生活ノ實體ヲモ、破壊セントシツ、アルノデアリマス、故ニ若シ本法案ガ百貨店ノ許可制ヲ採用セントスル以上、人口何十万ニ付キ何箇所ノ「デパート」ヲ許可セントスルノデアルカ、此際ハッキリシタコトヲ當局ヨリ承テ置クト云フコトガ、極メテ必要デアルト思ヒマス

ソレカラ第四條ニアル出張販賣デアリマス、本法第四條ノ店舗以外ニ於ケル物品販賣ニ付デアリマス、是ハ寧ロ許可制ト云フヨリモ、今一步積極的ニ禁止スルノ必要アリト思フノデアリマス、「デパート」ノ出張販賣ニ依ッテ受ケル小都市ノ被害ハ、實ニ想像以上甚大ナルモノデアリマシテ、又實際ノ被害ノ上カラ見マシテモ、一流「デパート」ノ出張販賣ハ、地方都市ノ購買力ヲ其儘擡フダケノ威力ヲ持ツモノデアリマス、小都市ニ於キマシテ大「デパート」ノ出張販賣後ハ、一月若クハ二月位中小商人ノ營業ヲ杜絶セシメルト云フ、驚クベキ結果ヲ生ジツ、アルノデアリマス、若シ特別ノ事情ニ依リ、此條項ヲドウシテモ除外スルコトガ出來ナイトスレバ、附則トシテ例外的ニ許可スルコトトシ、少クモ原則的ニハ禁止スルコト云フコトガ妥當デハナイカト思ヒマス（拍手）色々尋ネタイ事ガアリマスガ、時間ノ都合上私ハ此程度ヲ以テ打ちリマスカラ、商工大臣ガ今迄ノヤウニ通

リ一遍デハナク、極メテ親切率直ニ御答辯下サランコトヲ御願スル次第デアリマス（拍手）

（國務大臣伍堂卓雄君登壇）

○國務大臣（伍堂卓雄君） 鶴君ノ御質問ニ御答致シマス、中小商業者ノ救済ハ、百貨店法ノミニ依テ無論行ハレルトハ思ヒマセス、是ハ昨年決リマシタ商工組合中央金庫法ノ活用、及び今年此議會ニ提出致シマシタ損失補償法等ヲ十分ニ利用致シマシテ、彼等ニ金融ノ圓滑ヲ圖リタイト思フノデアリマス、私ハ此中小商業救済ト云フコトヲ、商工行政ノ最重要ナル政策ノ一ツトシテ微力ヲ盡シタイト思ヒマス、ソレカラ出張販賣ノ許可ニ付キマシテハ、十分吟味ヲ致シマシテ、只今御話ノヤウナ御意見ニ副フヤウニ致シタイト思ヒマス（拍手）

○鶴惣市君 私ノ質問ハ他ノ機會ニ讓ルコトト致シマシテ、之ヲ以テ打ちリマス

○議長（富田幸次郎君） 前田幸作君

（前田幸作君登壇）

○前田幸作君 極メテ簡單ニ商工大臣ノ答辯ヲ承リマス、曩ニ百貨店法ニ付キマシテハ、前年杵谷寅吉君ヲ初ト致シマシテ、同僚先輩ヨリモ本案ノ提出ヲ見タノデゴザイマスガ、遺憾ナガラ貴族院方面等ニ於キマシテ審議未了ニナツタノデゴザイマスガ、其時ノ所謂民政、政友其他ヨリ議員法トシテ提出ヲ致シマシタ法律ト、今回政府ガ御提

出ニナリマシタ此法案トヲ比較シテ見マスト、全ク骨抜キデアリマシテ、遺憾千萬ナ點ガアルノデゴザイマスガ、併シ出ナイヨリハ出タ方ガマシダ、先ヅ漸進的ト云フ意味ニ於キマシテ、本員ハ大體ニ於テ賛成ヲシタイト存ズルノデゴザイマスガ、以下諸點ニ付キマシテ極ク簡單ニ要點ダケヲ御伺致シマスノデ、大臣ニ於キマシテモ、其要綱ノミヲ御答ニナリマシテ、詳細ハ委員會ニ於テ質問應答シタイト思ヒマス

第十條ノ百貨店ノ事業中ニアリマス所ノ所謂統制力、是ガ今回ノ百貨店法ノ最重要ナル點デアルト思フノデアリマスガ、現在商業組合法ニ依ッテ、同法第三條ノ統制規定ニ依ッテ、統制ヲシテ居ル所ノ百貨店ノ統制事業ト、今回法律ニ依ッテ百貨店ヲ一ツノ組合トシテ、之ニ統制ヲセシメヨウト云フ其案トハ、五十歩百歩デアリマシテ、私ハ何レモ法律ノ力ノ及バザル統制デアルト、斯様ニ存ズルノデアリマスガ、此點如何御考ニナツテ居リマスカ、承リタイ、第二問ハ、御提案ノ第二十一條ニ百貨店ノ委員會ヲドウ作ルト、斯ウ云フヤウニナツテ居リマスガ、其委員會中ニハ當業者ヲバ御加ヘニナル御意思アリヤ如何、更ニ施行規則ニ付キマシテハ勅令ヲ以テ定ムトアリマスルガ、第六十七議會ニ於キマシテ議決致シマシタ、法人ニ對スル營業收益稅ヲ加ヘルト云フ、彼ノ興業稅ノ如キモノヲ勅令ヲ以テ施行ス

ルト言ヒナガラ、既ニ三箇年ニナラントシテ棚曝シニナツテ居リマスガ、是ト同様ナ運命ニ置カレル御意思カ、何時頃ノ御豫定デアリマスカ承リタイ、第四ハ、本法公布後ニ於キマシテ、百貨店ニ對シテ、一面百貨店ノ既得權ヲ認メルト云フコトニナルノデアリマス、他面ニ於キマシテ、小賣當業者ニ對シマスル所ノ救済案デアリマスガ、ソレダケ左様ニ百貨店ニモ監督權ヲ取ルコトニナルノデアリマスガ、此既得權ヲ持ッタ百貨店ニ對シテ、歐米諸外國ノ如クニ、所謂アリヤ否ヤ如何、第五問ト致シマシテハ、曩ニ政民兩黨及ビ其他ノ派カラ非常ナ御贊成ヲ得テ、第六十五議會ニ於キマシテ、建議案ヲ滿場一致ヲ以テ通過致シマシタ——所謂小賣商人ノ金融法案トシテ居ル所ノ、愛國商品券案ト云フモノハ、既ニ滿場一致ヲ以テ可決シテ居ルノデアリマスルガ、未ダニ其儘ニナツテ居リマスガ、此愛國商品券案ニ付キマシテ、國營ノ御意思アリヤ如何、其建議案ノ通過後ノ經過ヲ承リタイノデアリマス、第六問ト致シマシテ、昭和七年ノ商品券取締法施行規則第八條ニ依リマス「百貨店ハ券面金額五圓未満ノ商品券ヲ發行スルコトヲ得ズ」ト、斯様ニアルノデアリマスガ、但書ニ「前項ノ百貨店ハ商工大臣之ヲ指定ス」ト言ッテ居リマスルガ、此商品券取締法施行規則第八條ニ依ル百貨店

ト、只今御提案ニナッテ居ル所ノ百貨店トハ、何レモ商工大臣ガ認定ヲ致ス範圍デアリマスルガ、茲ニ喰違ヒハナイカ、今回ノ法律ニ依ッテ包含サレル所ノ百貨店ト、商品券取締法施行規則ノ第八條ニ依リ、商工大臣之ヲ認ムト云フ百貨店トハ、如何ナル開キガアリマシヤ、開キガアッテハナラナイノデアリマス、第八問ト致シマシテ、百貨店ニ勤務致シマス所ノ従業員ノ現在ノ待遇ハ、洵ニ遺憾ナ點ガアルノデアリマスガ、

是ハ國民保健ト云フ見地カラ、先ヅ百貨店ニ對シテ勤務致シマス所ノ、婦女子ニ對スル健康及ビ優遇法ニ付キマシテハ、本法ニ何等明示ヲシテ居ラナイノデゴザイマスガ、別段ニ御規定ナサル御意思アリヤ如何、第九問ハ、本法施行後ニ於キマシテ、仄聞致シマス、商店法ト云フモノヲバ御出シニナルヤニ承ルノデアリマス、果シテ其御意思アリヤ如何、アルト致シマシタナラバ、商店ガ午後十時以後ニ於テ營業ヲ致シマシタ場合ニ、相當ノ處分ニ付セラレルト云フヤウナコトハ、洵ニ小賣商店ノ自由ヲ束縛致スモノデアリマスガ、ソレハ臆説デアリマスカ、或ハ左様ナ意見アリヤ如何

以上デ私ノ質問ヲ打切りマスガ、最後ニ言致シマス、本議場ニ於キマシテノ當局ノ御答辯ハ、洵ニドウモ其場逃レノヤウニモ思ハレマスノデ、率直ニ斬込ンデ貰ッテ結構デス、ドウゾ存分ニ御答辯ヲ願ヒマシ

テ、次第ニ依ッテハ再質問致シマス

(國務大臣伍堂卓雄登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 御答致シマス、第十條ノ百貨店組合ヲシテ統制セシムル事項ハ、統制シ得ルト考ヘルノデアリマス、委員會ニ當業者ヲ入レマス云フコトニ付キマシテハ、是ハ考慮シテ見タイト思フノデアリマス、ソレカラ本法ノ實行期ハ、成ベク早く致シタイト思ヒマス、又既得權ヲ有スル百貨店ニ、百貨店稅ヲ設クルカドウカト云フコトハ、將來考慮シテ見タイト思ヒマス、ソレカラ愛國商品券ニ付キマシテモ、是ハ今尙ホ考慮中デアリマシテ、決定シテ居リマセス、第八條即チ此商品券等ニ付キマシテハ、是ハ從來ノ規定ト餘リ變ヘナイ積リデ居リマスガ、是モ尙ホ考究ヲ要スルコト考ヘマス、婦女子、幼年者等ノ就業條件ニ付キマシテハ、社會立法トノ關係上慎重ニ考慮シタイト思フノデアリマス、ソレカラ最後ニ商店法ノ制度ニ付キマシテハ、目下考究中デアリマス

(前田幸作君登壇)

○前田幸作君 商工大臣ハ御就任日ガ淺イノデゴザイマスノデ、是以上本席デ追究致シマスコトハ遠慮シタ方ガ宜イト思ヒマス、オ玄人ノ方ヨリ委員會等ニ付キマシテ承ルコトト致シマスガ、唯一點御認識ヲシテ戴キタイノハ、商品券取締法施行規則第八條ニ依リマシテ、五圓以下ノ商品券ヲ發

行シテハナラナイ、是ハ商工大臣ガ指定シ

タ百貨店ニ限ルト云フコトデアリマスノデ、現在一流百貨店ハ四十幾ツアルト存ジテ居リマス、其中デ商工大臣御指定ニナリマシタモノハ、僅々十二店デアリマス、言換ヘマスレバ、六大都市ノ百貨店ダケデナイカト思フノデアリマスガ、其以外ノ百貨店ニ於キマシテ、御指定ガナイ爲ニ——ソレハ委員會ニ於テ御説明致シマスガ、五錢、十錢、二十錢ト云フヤウナ小商品券ガ、金券類似ノモノガ發行サレテ居リマス、斯様ナモノヲ以チマシテ、二百万ノ小賣商店ヲ、僅ニ五十ニ足ラナイ所ノ百貨店ガ壓迫ヲシテ居ルト云フ、此事實ニ對シマシテ、御答ハ從來ノ規定ト變ヘナイ方針デアルト、是ガ大變ナ御認識ノ相違ガアルト思フノデアリマスガ、是レ以上ハ差控ヘマセウ、詳細ハ委員會デ申上ゲルコトニ致シマス、私ノ質問ハ終リマス

○議長(富田幸次郎君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 兩案ハ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託シ、議長ヨリ直チニ指名ヲ爲シ、尙ホ指名セラレタル委員ハ、直チニ委員會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君提出ノ動議ニ御異議ハアリマセスカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、直チニ委員ヲ指名致シマス

百貨店法案外一件委員十八名

眞鍋 儀十君 內藤 正剛君

枡谷 寅吉君 齋藤 直橋君

中村 梅吉君 中 亥歲男君

中村三之丞君 服部 崎市君

板谷 順助君 深澤豐太郎君

箸本 太吉君 瀨川 嘉助君

上田 孝吉君 紅露 昭君

鶴 惣市君 山口 久吉君

川村保太郎君 前田 幸作君

以上ノ十八名ハ直チニ委員會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第十一及ビ第十二ノ兩案ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議ハアリマセスカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第十一、船員法改正法律案、日程第十二、日本無線電信株式會社法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キ

マス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長中井一夫君

第十一 船員法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 船員法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 中井 一夫

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 政府ハ海運ノ重要性ト船員ノ特殊性トニ鑑ミ刑法ヲ改正シ船員ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルコトニ因リテ生ジタル過失ニ非ザレバ罰セザルヤウ之ヲ法文化スベシ

二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザル方針ヲ採ルベシ

三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ處斷セザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ爲スニ當リテハ其ノ業務ニ支障ヲ來サザルヤウ十分ニ理解アル態度ヲ以テ臨ムベク檢察官ニ訓令ヲ發スベシ

報告書

一 日本無線電信株式會社法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 中井 一夫

衆議院議長富田幸次郎殿

(中井一夫君登壇)

○中井一夫君 委員會ニ御付託ニナリマシタニ法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告ヲ致シマス、先ヅ日本無線電信株式會社法中改正法律案ニ付テ御報告ヲ致スノデアリマスルガ、本案ノ委員會ハ三月二十八日ト二十九日ノ兩日ニ互リマシテ之ヲ開催致シマシタ、其間山杣儀重君カラ、日本無線電信株式會社ト國際電話株式會社トノ合併セラレタルニ付テ、政府ハ萬全ノ方策ヲ講ゼナケレバナラヌト云フ點、其他ニ關スル有益ナル御質疑ガアリマシタ後ニ於テ、本案ハ二十九日ニ之ヲ可決致シタ次第デアリマス

次ニ船員法ノ改正法律案ノ經過ヲ御報告ヲ致シタイト思ヒマス、本委員會ハ去ル三月ノ二十日、其第一回ヲ開キマシテ以來、昨二十九日ニ至リマスル迄、前後九回ノ會議ヲ重ネタノデアリマスルガ、其間各委員諸君ガ精勵且ツ慎重ニ議案ノ審議ヲ進メラレマシタル詳細ハ、之ヲ一切委員會ノ速記録ニ讓リマシテ、此處ニハ唯其結果ノミヲ御報告致シタイト思フノデアリマス、即チ

昨日ノ委員會ニ於キマシテハ、政府原案ハ、結局民政黨、昭和會、社會大衆黨及ビ政友會ノ四黨派ノ共同提案ニ係リマスル、四箇ノ附帶決議ヲ附シマシテ、之ヲ可決セラレタノデアリマス、其附帶決議ハ即チ

第一 政府ハ海運ノ重要性ト船員ノ特殊性トニ鑑ミ刑法ヲ改正シ船員ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルコトニ因リテ生ジタル過失ニ非ザレバ罰セザルヤウ之ヲ法文化スベシ

第二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザル方針ヲ採ルベシ

第三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ處斷セザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

第四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ爲スニ當リテハ其ノ業務ニ支障ヲ來サザルヤウ十分ニ理解アル態度ヲ以テ臨ムベク檢察官ニ訓令ヲ發スベシ

ト云フ四箇條デアッタノデアリマス、就キマシテハ、此附帶決議ニ付キマシテ、私ヨリ此際政府ニ對シマシテ、其所信ト將來ノ方針トヲ聲明セラレンコトヲ要求致シタイト存ジマス、以上ヲ以テ簡單デハゴザリマスルガ、二法案ノ委員會ノ經過竝ニ其結果ノ御報告ト致シマス

○議長(富田幸次郎君) 兒玉遞信大臣

(國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 院議ハ謹ンデ尊重致シマス

○議長(富田幸次郎君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

船員法改正法律案 第二讀會(確定議)

日本無線電信株式會社法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案共委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第三十三及ビ第三十四ノ兩案ヲ一括シテ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス——日程變更ニ付テ政府ニ交渉中デア
リマスカラ、暫時御待チアランコトヲ望ミ
マス——是ニテ暫時休憩致シマス

午後六時三十八分休憩

午後十一時四十一分開議

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會
議ヲ開キマス

○服部崎市君 最早時刻モ切迫致シマシタ
ノデ、本日ハ之ヲ以テ散會セラレンコトヲ
望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 服部君提出ノ動議
ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、明三十
一日ハ會期終了日デアリマカラ、先例ニ依
リ午前十時ヨリ本會議ヲ開キマス、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス

午後十一時四十二分散會

